



SUSTAINABLE
FOREST ACTION

2021年3月30日

SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020

最終報告書 公開用

SPERO

株式会社Spero

1 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の背景

- 1-1) 林業にオープンイノベーションが必要な背景
- 1-2) イノベーションを生み出すサイクル
- 1-3) 他産業・他技術との交流が少ない林業界
- 1-4) 異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション
- 1-5) SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト
- 1-6) 二つのプロセス支援で事業を創出

2 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の実施概要

- 2-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要
- 2-2) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ
- 2-3) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ(詳細)

3 SFA2020の実施詳細：募集準備

- 3-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION WEBのリニューアル
- 3-2) 林業・森林づくりにおける課題マップの作成（第1期SFAの微修正）
- 3-3) 映像の作成と公開

4 SFA2020の実施詳細：募集

- 4-1) 募集要項 詳細
- 4-2) 募集結果
- 4-3) チームマッチング面談とチーム組成
- 4-4) 採択された参加11チーム

5 SFA2020の実施詳細：キックオフ

- 5-1) キックオフ開催
- 5-2) 「新規事業創出」講義資料一部
- 5-3) 「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル
- 5-4) 「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

6 SFA2020の実施詳細：伴走支援

- 6-1) リーンスタートアップ手法の導入
- 6-2) 2か月間の手厚いメンタリング伴走支援
- 6-3) メンター経歴一部
- 6-4) 林業フィールド・林業パートナーの用意

7 SFA2020の実施詳細：中間研修

- 7-1) 中間研修の開催
- 7-2) 中間研修の先輩起業家講演
- 7-3) メンターパネルディスカッション
- 7-4) 模擬ピッチとメンター（模擬審査員）によるフィードバック

8 SFA2020の実施詳細：デモデイ

- 8-1) デモデイの開催 概要
- 8-2) デモデイの審査員
- 8-3) デモデイ当日の様子 1
- 8-4) デモデイ当日の様子 2
- 8-5) 予選ピッチで決勝に進出した5チーム
- 8-6) デモデイ優勝チーム

9 受賞者の事業化の動き

- 9-1) 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援
- 9-2) 株式会社フォレストーリー の事業化の動き
- 9-3) 株式会社ソマノベース（会社登記は4月予定）事業化の動き

10 取りまとめと総括：

- 10-1) 第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価
- 10-2) 他、SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の気づき
- 10-3) 課題まとめと次年度以降の施策
- 10-4) SFA2020参加者アンケート結果 サマリ
- 10-5) アンケート ポジティブフィードバック 1
- 10-6) アンケート ポジティブフィードバック 2
- 10-7) アンケート ポジティブフィードバック 3
- 10-8) アンケート ポジティブフィードバック 4

1 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の背景

- 1-1) 林業にオープンイノベーションが必要な背景
- 1-2) イノベーションを生み出すサイクル
- 1-3) 他産業・他技術との交流が少ない林業界
- 1-4) 異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション
- 1-5) SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト
- 1-6) 二つのプロセス支援で事業を創出

2 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の実施概要

- 2-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要
- 2-2) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ
- 2-3) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ(詳細)

3 SFA2020の実施詳細：募集準備

- 3-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION WEBのリニューアル
- 3-2) 林業・森林づくりにおける課題マップの作成（第1期SFAの微修正）
- 3-3) 映像の作成と公開

4 SFA2020の実施詳細：募集

- 4-1) 募集要項 詳細
- 4-2) 募集結果
- 4-3) チームマッチング面談とチーム組成
- 4-4) 採択された参加11チーム

5 SFA2020の実施詳細：キックオフ

- 5-1) キックオフ開催
- 5-2) 「新規事業創出」講義資料一部
- 5-3) 「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル
- 5-4) 「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

6 SFA2020の実施詳細：伴走支援

- 6-1) リーンスタートアップ手法の導入
- 6-2) 2か月間の手厚いメンタリング伴走支援
- 6-3) メンター経歴一部
- 6-4) 林業フィールド・林業パートナーの用意

7 SFA2020の実施詳細：中間研修

- 7-1) 中間研修の開催
- 7-2) 中間研修の先輩起業家講演
- 7-3) メンターパネルディスカッション
- 7-4) 模擬ピッチとメンター（模擬審査員）によるフィードバック

8 SFA2020の実施詳細：デモデイ

- 8-1) デモデイの開催 概要
- 8-2) デモデイの審査員
- 8-3) デモデイ当日の様子 1
- 8-4) デモデイ当日の様子 2
- 8-5) 予選ピッチで決勝に進出した5チーム
- 8-6) デモデイ優勝チーム

9 受賞者の事業化の動き

- 9-1) 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援
- 9-2) 株式会社フォレストーリー の事業化の動き
- 9-3) 株式会社ソマノベース（会社登記は4月予定）事業化の動き

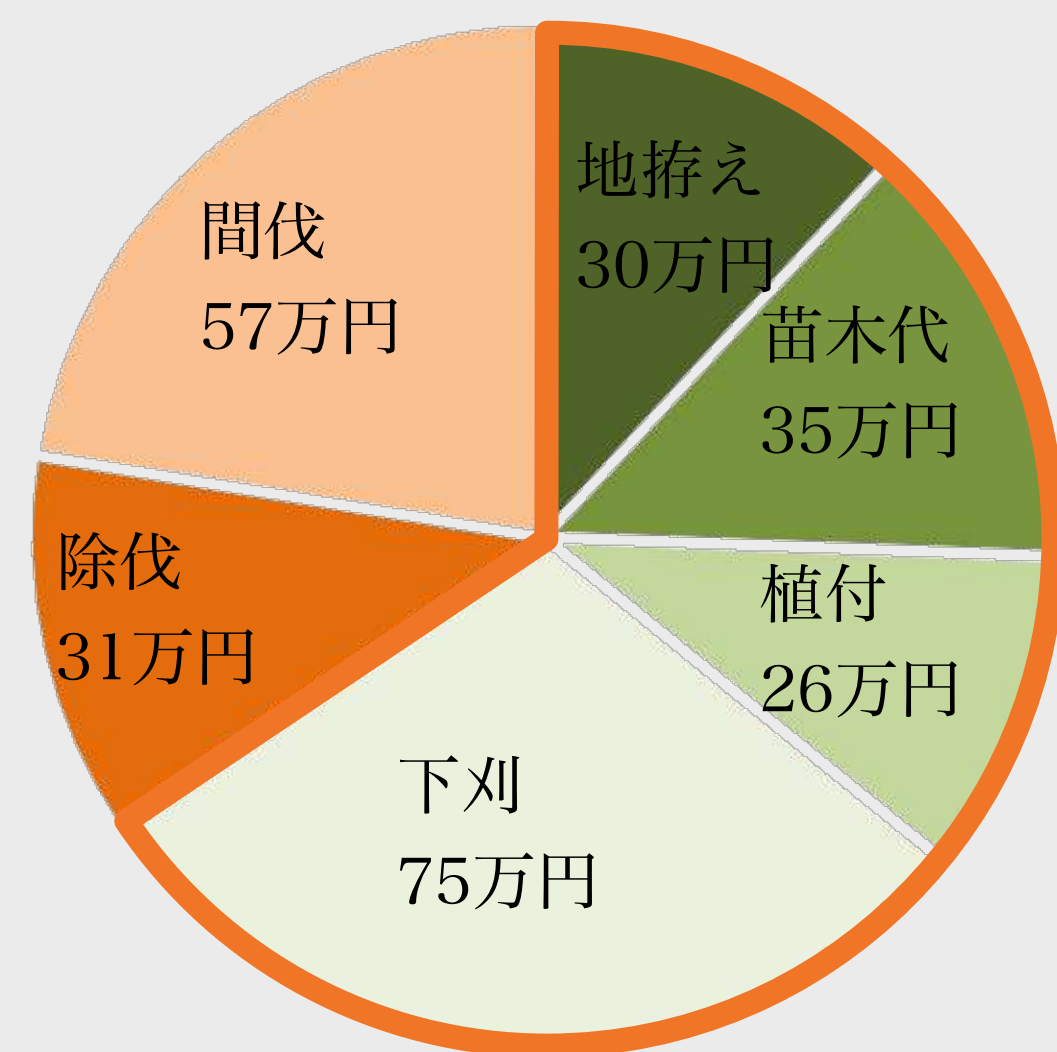
10 取りまとめと総括：

- 10-1) 第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価
- 10-2) 他、SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の気づき
- 10-3) 課題まとめと次年度以降の施策
- 10-4) SFA2020参加者アンケート結果 サマリ
- 10-5) アンケート ポジティブフィードバック 1
- 10-6) アンケート ポジティブフィードバック 2
- 10-7) アンケート ポジティブフィードバック 3
- 10-8) アンケート ポジティブフィードバック 4

林業にオープンイノベーションが必要な背景

育林経費の7割を占める造林コストの高止まりは喫緊の課題。業界内で自発的にイノベーションが起きない状況において、異分野の知見を投入したオープンイノベーションが必要とされている。

現状①：造林コストは育林経費の約7割を占めるが、長年コストが高止まりしている



H29標準単価より作成

スギ3,000本/ha植栽、下刈5回、除伐2回

保育間伐1回、搬出間伐 (50~60m³/ha)1回

現状②：プレイヤーが極端に少ない

- ✓ 林業業界で、技術開発・事業開発を担う人材が極端に少ない
- ✓ 成果普及（市販化）を担う人材が少ない
- ✓ 自治体・地域レベルの取り組みは行われているが、事業計画を描けず、普及が広まらない

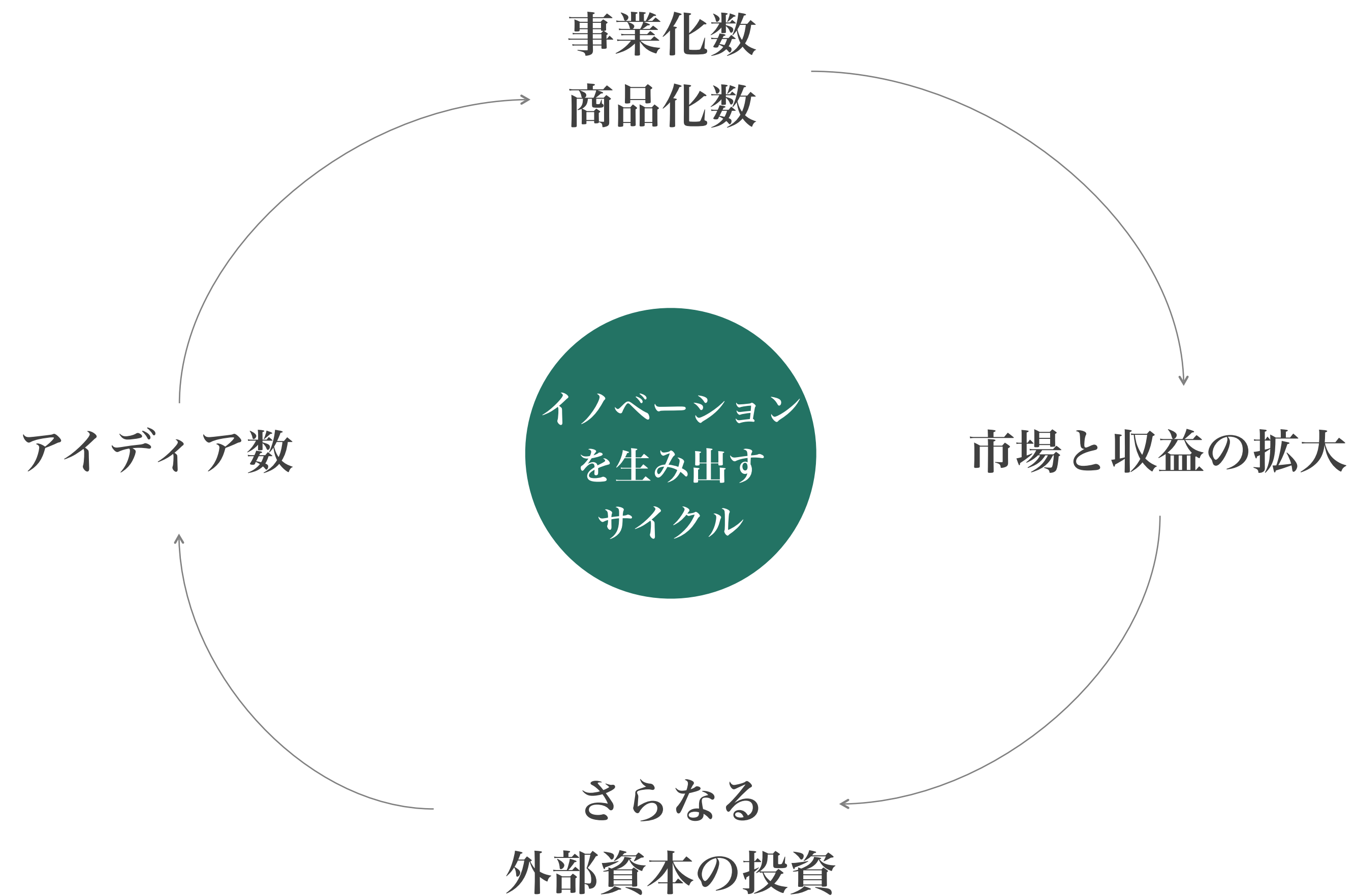
現状③：他産業との交流が少ない

- ✓ 他産業の革新的な技術やアイデアが入って来にくい
- ✓ 固定プレイヤーの既定路線のアイデアしかでない
- ✓ 林業事業者のデジタルディバイドが存在

異分野の産業・知見・人材の導入（オープンイノベーション）が必要である。

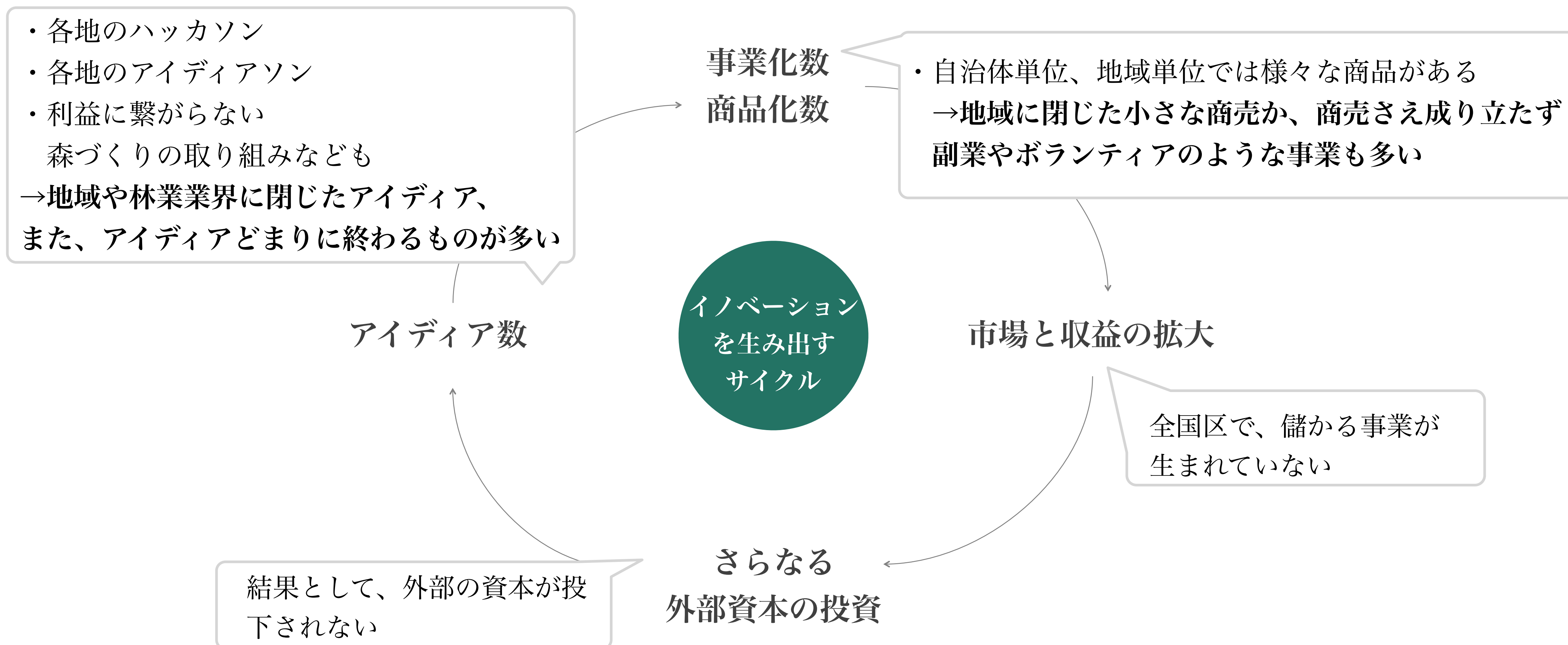
イノベーションを生み出すサイクル

イノベーションを生み出すサイクルは、生み出されるアイデア数にはじまり→事業化・商品化数→市場と収益の拡大→さらなる外部資本の投資と循環する。



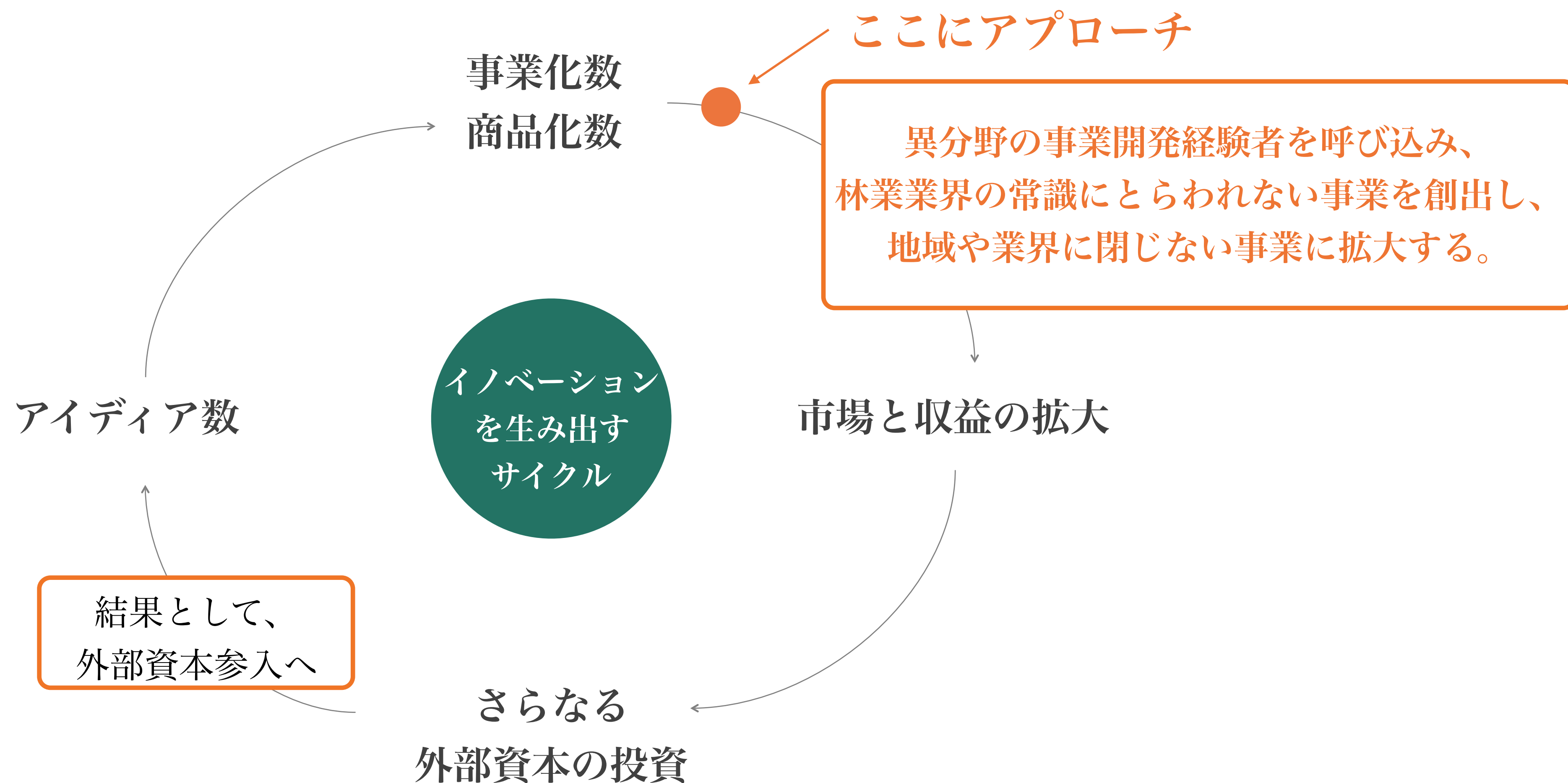
他産業・他技術との交流が少ない林業界

しかし、現状の林業業界においては、①殆どのアイデアが地域や林業業界に閉じており、②結果、商品や事業も地域に限定され、市場が魅力的でないため、外部参入も行われにくい。



異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション

そこで、林業界に異分野の事業開発経験者の参入を促すことで、
 特約の地域や林業界に限定されない、魅力的な市場の事業を生み出すことが期待できる。



SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト

基本コンセプトを、“**林業従事者と異分野事業開発経験者による事業共創**”に設定した。

- 林業従事者は、林業・森林づくりに真摯に向き合い、現場の課題を知っている。
- 事業開発経験者は、課題や提供価値を再定義し、魅力的な市場の事業を構築することができる。
- ➔ 林業従事者と事業開発経験者がチームとなり、事業開発経験者が、林業従事者の持つ課題から、その深掘り・再定義と顧客ニーズの検証を行っていくことで、従来の林業界にはない事業を創出する。



二つのプロセス支援で事業を創出

- ①. 繰り返し、顧客のニーズ検証を行う2ヶ月のアクセラレーションプログラム(SUSTAINABLE FOREST ACTION)と
- ②. 森林づくりへの異分野技術導入・実証事業との連携による優秀案件の事業化支援の2本だてで、魅力的な市場規模につながる事業を開発する。

アイデアを検証し事業計画まで練り上げる

事業計画を実施するための体制づくり・試作開発など

プログラム

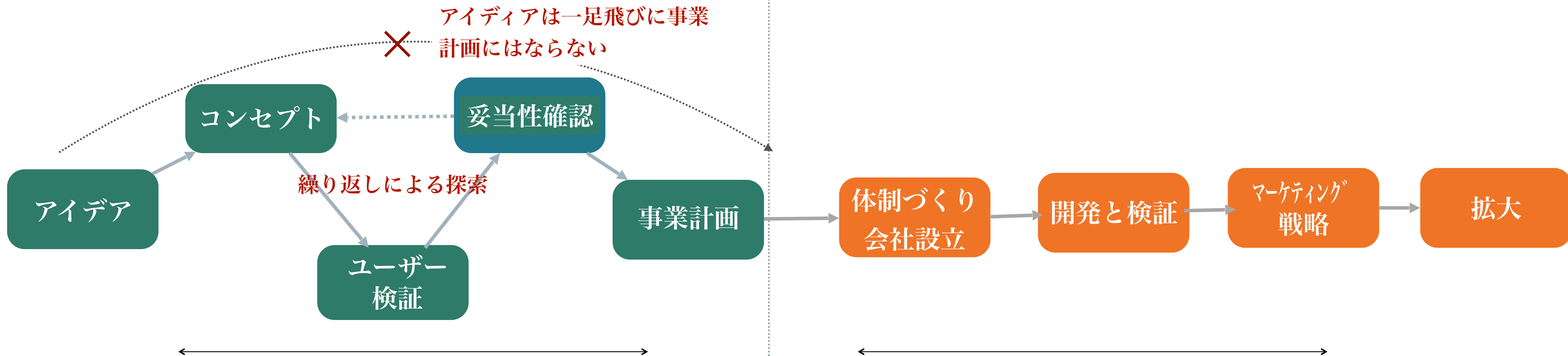


本事業：SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020

優秀案件の事業化支援

森林づくりへの異分野技術導入・実証事業

事業開発のプロセス



そのコンセプトが本当に顧客が欲しいものかどうかを確認し、仕様をブラッシュアップしていくプロセス

事業計画に従って、品質、コスト、生産等を実現していくプロセス

1 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の背景

- 1-1) 林業にオープンイノベーションが必要な背景
- 1-2) イノベーションを生み出すサイクル
- 1-3) 他産業・他技術との交流が少ない林業界
- 1-4) 異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション
- 1-5) SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト
- 1-6) 二つのプロセス支援で事業を創出

2 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の実施概要

- 2-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要
- 2-2) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ
- 2-3) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ(詳細)

3 SFA2020の実施詳細：募集準備

- 3-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION WEBのリニューアル
- 3-2) 林業・森林づくりにおける課題マップの作成（第1期SFAの微修正）
- 3-3) 映像の作成と公開

4 SFA2020の実施詳細：募集

- 4-1) 募集要項 詳細
- 4-2) 募集結果
- 4-3) チームマッチング面談とチーム組成
- 4-4) 採択された参加11チーム

5 SFA2020の実施詳細：キックオフ

- 5-1) キックオフ開催
- 5-2) 「新規事業創出」講義資料一部
- 5-3) 「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル
- 5-4) 「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

6 SFA2020の実施詳細：伴走支援

- 6-1) リーンスタートアップ手法の導入
- 6-2) 2か月間の手厚いメンタリング伴走支援
- 6-3) メンター経歴一部
- 6-4) 林業フィールド・林業パートナーの用意

7 SFA2020の実施詳細：中間研修

- 7-1) 中間研修の開催
- 7-2) 中間研修の先輩起業家講演
- 7-3) メンターパネルディスカッション
- 7-4) 模擬ピッチとメンター（模擬審査員）によるフィードバック

8 SFA2020の実施詳細：デモデイ

- 8-1) デモデイの開催 概要
- 8-2) デモデイの審査員
- 8-3) デモデイ当日の様子 1
- 8-4) デモデイ当日の様子 2
- 8-5) 予選ピッチで決勝に進出した5チーム
- 8-6) デモデイ優勝チーム

9 受賞者の事業化の動き

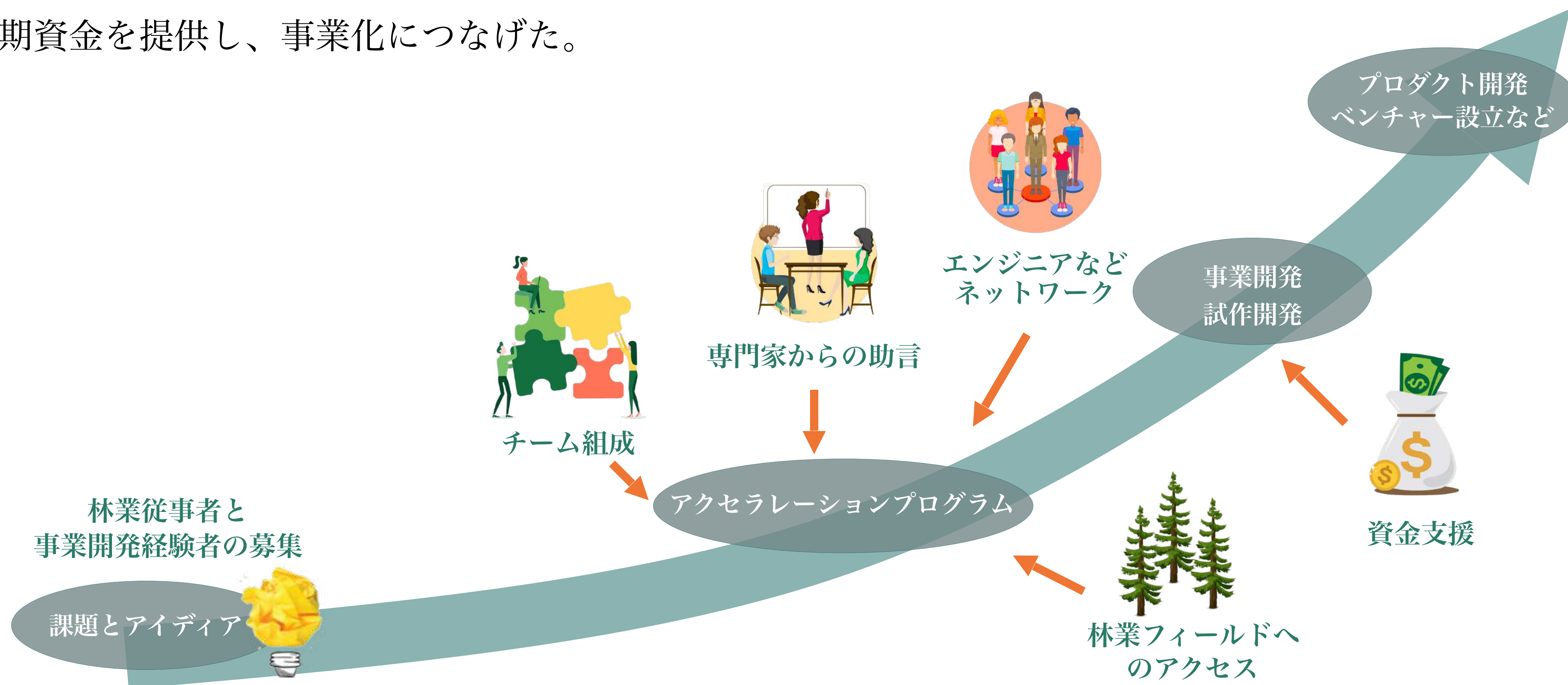
- 9-1) 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援
- 9-2) 株式会社フォレストーリー の事業化の動き
- 9-3) 株式会社ソマノベース（会社登記は4月予定）事業化の動き

10 取りまとめと総括：

- 10-1) 第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価
- 10-2) 他、SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の気づき
- 10-3) 課題まとめと次年度以降の施策
- 10-4) SFA2020参加者アンケート結果 サマリ
- 10-5) アンケート ポジティブフィードバック 1
- 10-6) アンケート ポジティブフィードバック 2
- 10-7) アンケート ポジティブフィードバック 3
- 10-8) アンケート ポジティブフィードバック 4

SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要

- 事業開発経験者と林業従事者をマッチングすることで、事業推進力のあるチームを形成した。
- イノベーションは1日イベントにしてならず。アクセラレーションプログラム（継続的にアイデアを検討・検証を続けること）を運営し、伴走専門家の配置等でサポートし、デモデイ（最終成果発表会）につなげた。
- 令和元年度森林づくりへの異分野技術導入・実証事業の補助事業者との連携によりデモデイ 優勝者へ、事業開発の初期資金を提供し、事業化につなげた。



SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の全体の流れ

事業開発期間・メンタリング (約2ヶ月間)

8/23(日)13:00-18:00

10/3(土)13:00-17:00
10/4(日)10:00-13:00

11/1(日)10:00-17:00

キックオフ



- 事業開発講義ワークショップ
- 林業課題についてのパネルなど

全面オンライン開催

中間研修



- プレゼンポイント講座
- 各チームの中間発表とフィードバックなど

オンライン・永田町
同時開催

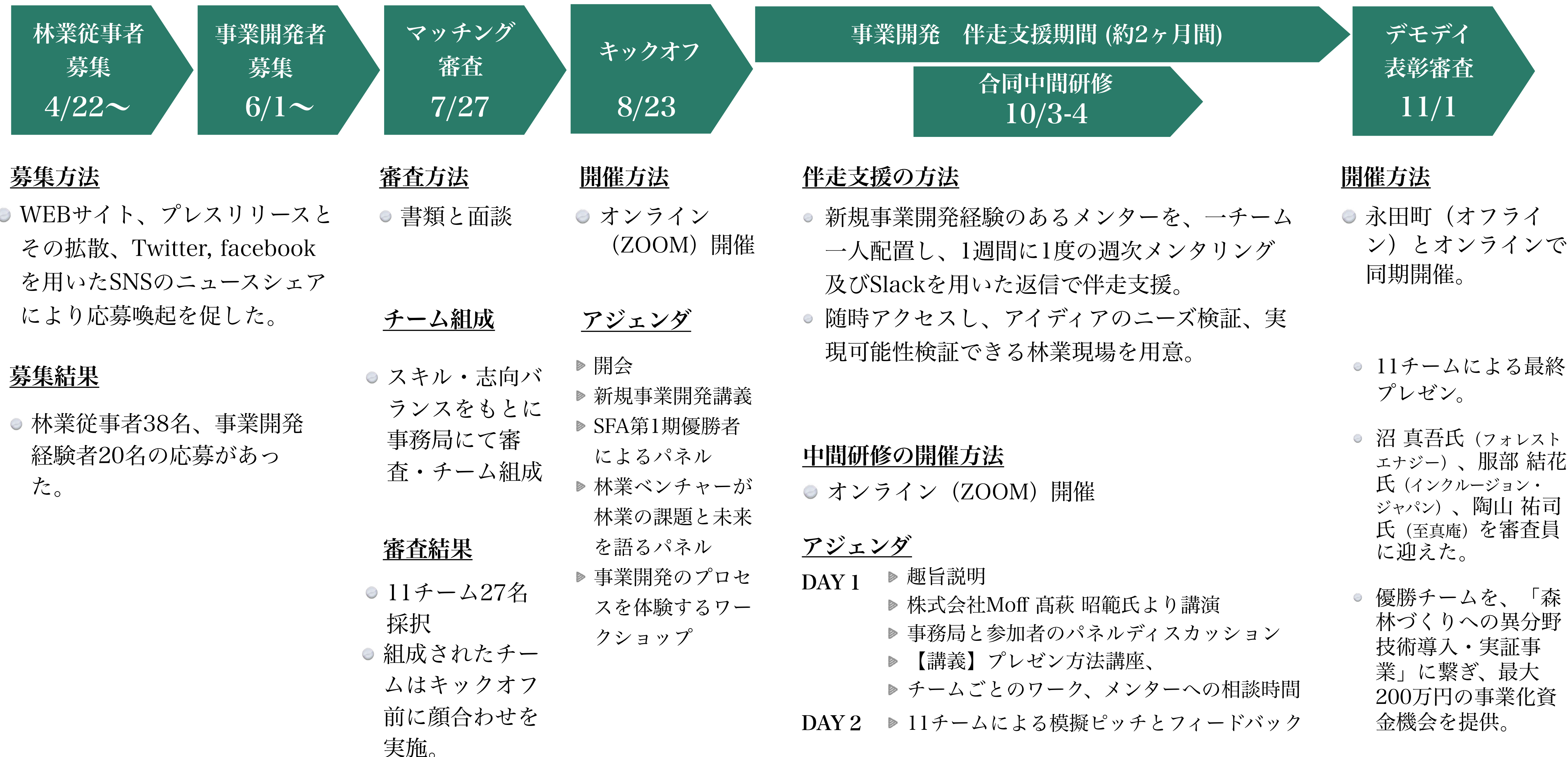
デモデイ



- 審査員の前で最終プレゼン
- 表彰

オンライン・永田町
同時開催

SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ（詳細）



1 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の背景

- 1-1) 林業にオープンイノベーションが必要な背景
- 1-2) イノベーションを生み出すサイクル
- 1-3) 他産業・他技術との交流が少ない林業界
- 1-4) 異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション
- 1-5) SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト
- 1-6) 二つのプロセス支援で事業を創出

2 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の実施概要

- 2-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要
- 2-2) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ
- 2-3) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ(詳細)

3 SFA2020の実施詳細：募集準備

- 3-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION WEBのリニューアル
- 3-2) 林業・森林づくりにおける課題マップの作成（第1期SFAの微修正）
- 3-3) 映像の作成と公開

4 SFA2020の実施詳細：募集

- 4-1) 募集要項 詳細
- 4-2) 募集結果
- 4-3) チームマッチング面談とチーム組成
- 4-4) 採択された参加11チーム

5 SFA2020の実施詳細：キックオフ

- 5-1) キックオフ開催
- 5-2) 「新規事業創出」講義資料一部
- 5-3) 「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル
- 5-4) 「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

6 SFA2020の実施詳細：伴走支援

- 6-1) リーンスタートアップ手法の導入
- 6-2) 2か月間の手厚いメンタリング伴走支援
- 6-3) メンター経歴一部
- 6-4) 林業フィールド・林業パートナーの用意

7 SFA2020の実施詳細：中間研修

- 7-1) 中間研修の開催
- 7-2) 中間研修の先輩起業家講演
- 7-3) メンターパネルディスカッション
- 7-4) 模擬ピッチとメンター（模擬審査員）によるフィードバック

8 SFA2020の実施詳細：デモデイ

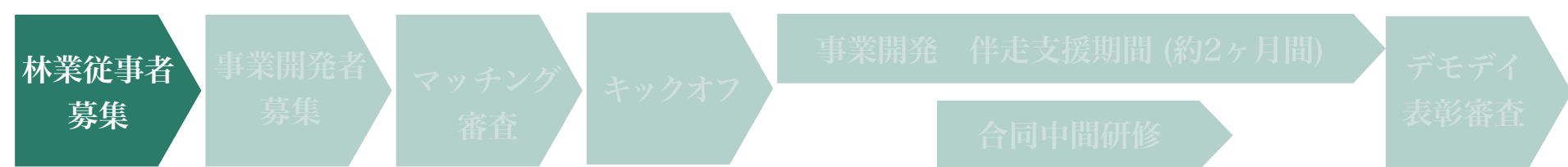
- 8-1) デモデイの開催 概要
- 8-2) デモデイの審査員
- 8-3) デモデイ当日の様子 1
- 8-4) デモデイ当日の様子 2
- 8-5) 予選ピッチで決勝に進出した5チーム
- 8-6) デモデイ優勝チーム

9 受賞者の事業化の動き

- 9-1) 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援
- 9-2) 株式会社フォレストーリーの事業化の動き
- 9-3) 株式会社ソマノベース（会社登記は4月予定）事業化の動き

10 取りまとめと総括：

- 10-1) 第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価
- 10-2) 他、SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の気づき
- 10-3) 課題まとめと次年度以降の施策
- 10-4) SFA2020参加者アンケート結果 サマリ
- 10-5) アンケート ポジティブフィードバック 1
- 10-6) アンケート ポジティブフィードバック 2
- 10-7) アンケート ポジティブフィードバック 3
- 10-8) アンケート ポジティブフィードバック 4



WEBサイトのリニューアル

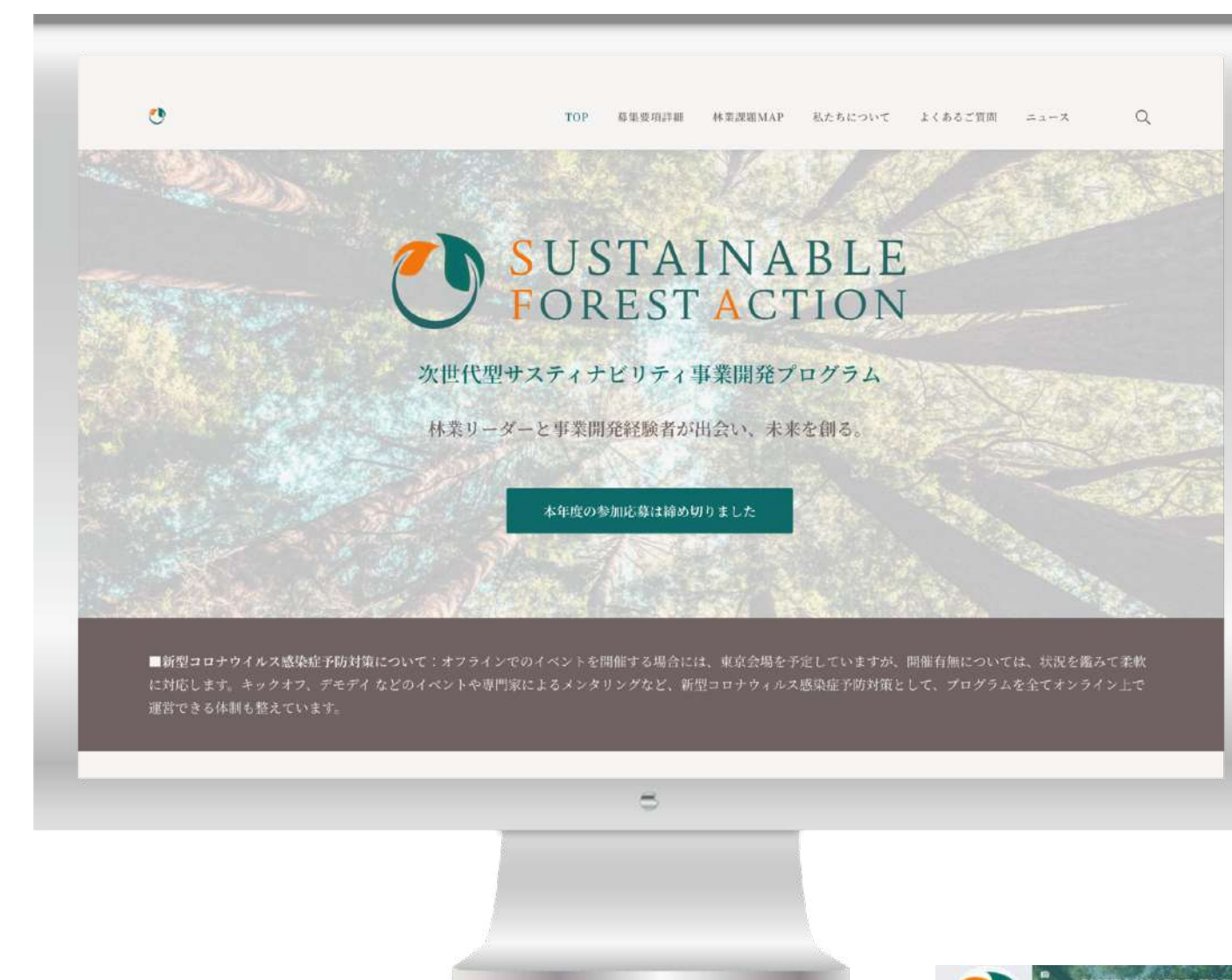
- 前年度のからWEBデザインをリニューアルし、WEBおよび、SNS（Twitterとfacebook）を用いて募集を行った。

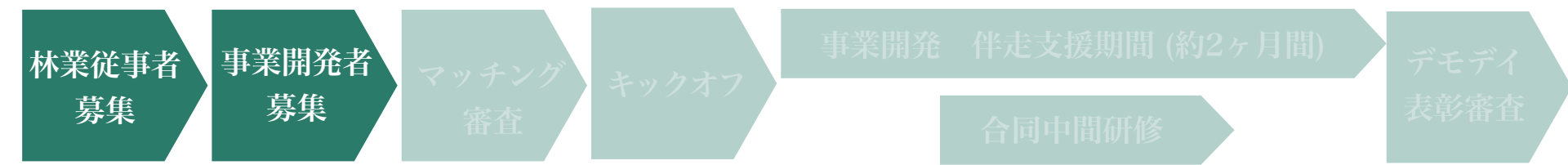


2019年度



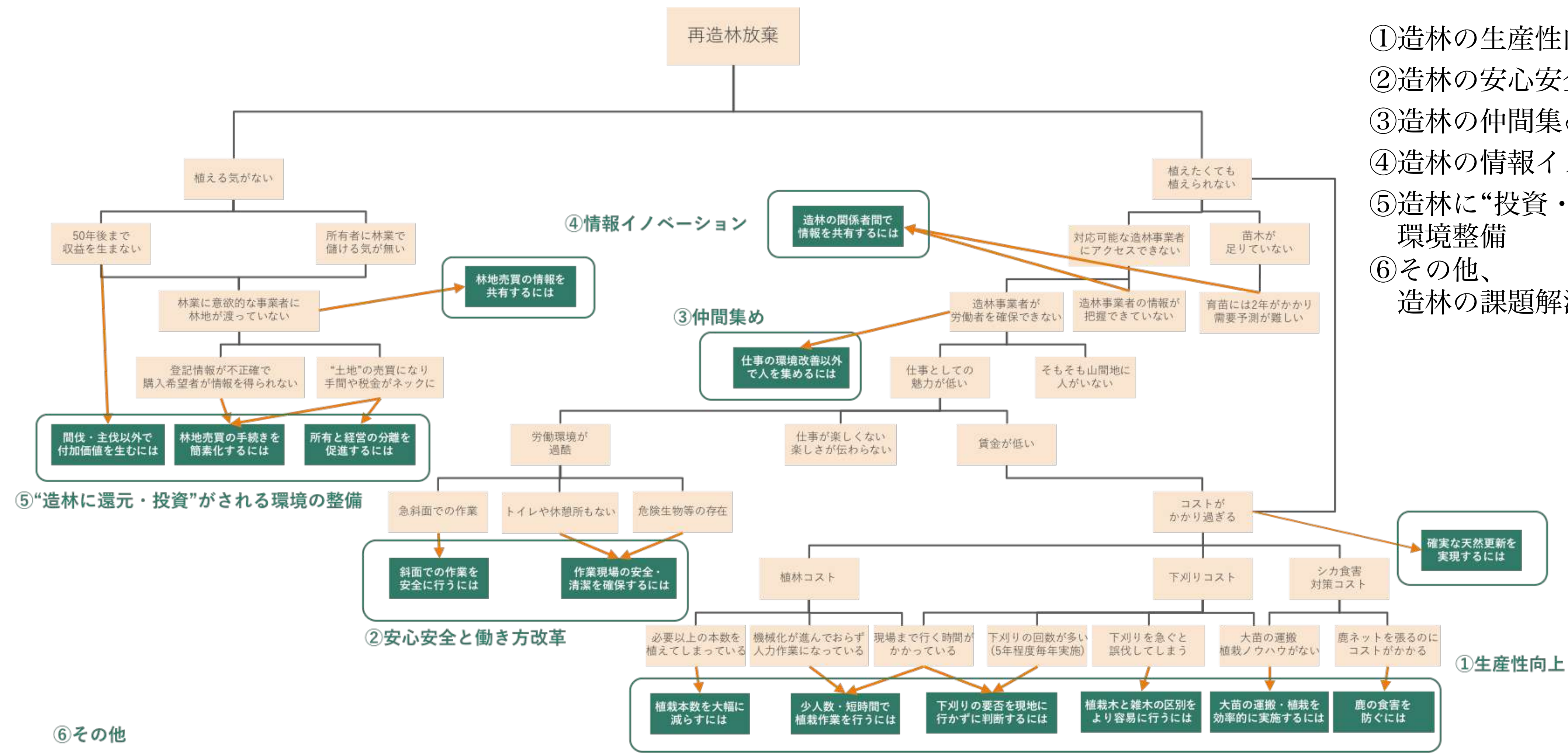
2020年度



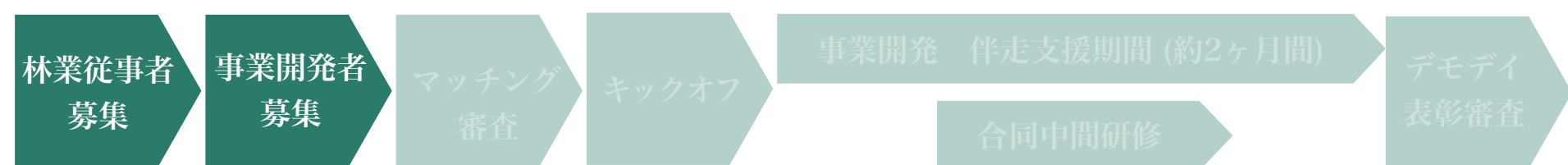


林業・森林づくりにおける課題マップの作成 (第1期SFAの微修正)

応募者の興味把握を目的に、造林課題を可視化・整理のうえ公開した。



- ①造林の生産性向上
- ②造林の安心安全と働き方改革
- ③造林の仲間集め
- ④造林の情報イノベーション
- ⑤造林に“投資・還元”がされる環境整備
- ⑥その他、造林の課題解決に資するテーマ



映像の作成と公開

- 「林業と異分野のオープンイノベーション」「課題解決への熱量」「仮説検証の繰り返し」という3テーマで、前年度SFAの参加者のインタビューを実施し、編集・公開した。
- 作成した動画はyoutubeにアップし、公式WEBサイトやSNSから動画へ誘導した。



1 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の背景

- 1-1) 林業にオープンイノベーションが必要な背景
- 1-2) イノベーションを生み出すサイクル
- 1-3) 他産業・他技術との交流が少ない林業界
- 1-4) 異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション
- 1-5) SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト
- 1-6) 二つのプロセス支援で事業を創出

2 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の実施概要

- 2-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要
- 2-2) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ
- 2-3) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ(詳細)

3 SFA2020の実施詳細：募集準備

- 3-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION WEBのリニューアル
- 3-2) 林業・森林づくりにおける課題マップの作成（第1期SFAの微修正）
- 3-3) 映像の作成と公開

4 SFA2020の実施詳細：募集

- 4-1) 募集要項 詳細
- 4-2) 募集結果
- 4-3) チームマッチング面談とチーム組成
- 4-4) 採択された参加11チーム

5 SFA2020の実施詳細：キックオフ

- 5-1) キックオフ開催
- 5-2) 「新規事業創出」講義資料一部
- 5-3) 「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル
- 5-4) 「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

6 SFA2020の実施詳細：伴走支援

- 6-1) リーンスタートアップ手法の導入
- 6-2) 2か月間の手厚いメンタリング伴走支援
- 6-3) メンター経歴一部
- 6-4) 林業フィールド・林業パートナーの用意

7 SFA2020の実施詳細：中間研修

- 7-1) 中間研修の開催
- 7-2) 中間研修の先輩起業家講演
- 7-3) メンターパネルディスカッション
- 7-4) 模擬ピッチとメンター（模擬審査員）によるフィードバック

8 SFA2020の実施詳細：デモデイ

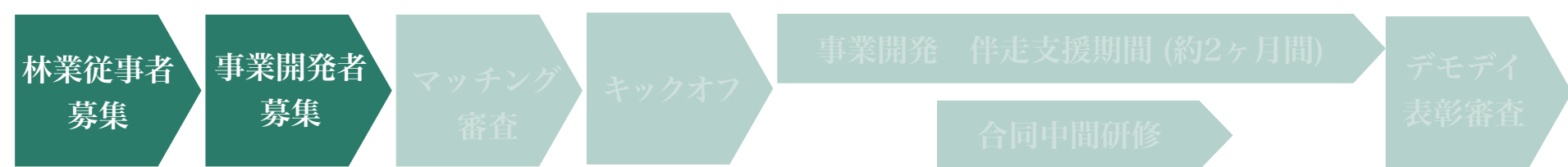
- 8-1) デモデイの開催 概要
- 8-2) デモデイの審査員
- 8-3) デモデイ当日の様子 1
- 8-4) デモデイ当日の様子 2
- 8-5) 予選ピッチで決勝に進出した5チーム
- 8-6) デモデイ優勝チーム

9 受賞者の事業化の動き

- 9-1) 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援
- 9-2) 株式会社フォレストーリー の事業化の動き
- 9-3) 株式会社ソマノベース（会社登記は4月予定）事業化の動き

10 取りまとめと総括：

- 10-1) 第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価
- 10-2) 他、SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の気づき
- 10-3) 課題まとめと次年度以降の施策
- 10-4) SFA2020参加者アンケート結果 サマリ
- 10-5) アンケート ポジティブフィードバック 1
- 10-6) アンケート ポジティブフィードバック 2
- 10-7) アンケート ポジティブフィードバック 3
- 10-8) アンケート ポジティブフィードバック 4



募集要項 詳細

募集手段

応募資格

エントリー項目

選考基準

林業従事者

- WEBサイト、プレスリリースとその拡散、Twitter, facebookを用いたSNSのニュースシェアによる応募喚起

事業開発経験者

- 過去の習慣や常識にとらわれず、事業開発経験者と共に柔軟に事業開発を進める意志があること。
- 林業課題の解決の事業化に高い関心があり、事業化に至るまで継続的に関与する意志があること
- PC、及び、インターネットツールの利用に積極的で、環境が整っていること。

- 林業経験者の声に耳を傾けながら、チーム及び事業開発のマネジメントを行う意志があること。
- 林業課題の解決の事業化に高い関心があり、事業化に至るまで継続的に関与する意志があること。
- 0から新規事業を立ち上げた経験がある、または、準ずる経験*があること。

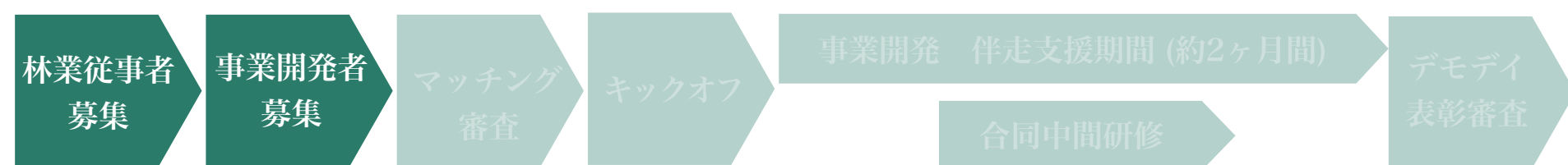
- 社会人、学生、国籍は不問。
- 原則として、キックオフ、合同研修、デモデイに参加できること。

- 現在の仕事内容興味のある林業課題テーマ
- 興味のある林業課題に対する現状の取り組み

- 過去の事業開発経験（事業内容、ステージ、担当など）
- 事業開発する上で大切にしていること
- 興味のある林業課題テーマ

- 林業に対する課題意識があるか
- 自分のアイディアに固執せず、柔軟さを持って事業開発の検証を進めることができるか

- 林業人材及び林業課題に向き合い、真摯に周りを巻き込んで事業開発を進めていけるか。



募集結果

- 林業従事者38名、事業開発経験者20名、合計58名の応募があった。58名全員にZOOM面談を実施し、経験や志向性を丁寧にヒアリングをしながら、審査・チーム組成した。
- オンライン募集・プログラムのオンライン実施によるメリットが大きいことがわかった。

	林業従事者	事業開発経験者
人数	30チーム 38名	19チーム 20名
年齢	林業人材の年齢は、20代後半～60代前半まで幅広く、前年度と比べ、20-40代の若手で情報リテラシーも高く、意欲的な人材が多かった →募集施策の効果	20代後半～50代後半まで幅広い応募があった
地域	関東、中部、近畿、中国、九州地方、北海道と 昨年に比べ、全国からの応募があった →オンライン実施によるメリット	7-8割の応募が東京に集中していた →そもそも事業開発経験者やセカンドビジネスに意欲的な人材が大都市圏に集中している
属性	林家の経営者（国有林、私有林、自伐林家含む）、従業員、自治体職員（研究員含）、森林組合の職員、NPO・一般社団法人の従業員まで幅広く買った。	スタートアップ、または小規模コンサル会社 デザイン会社の経営者がメインであった。



チームマッチング面談とチーム編成

- 58名の応募者から、マッチング・チーム組成を行い、三者面談を行い、両者から感想を聞きながら、時にチームを組み直し、11チーム述べ27名のチームを組成した。





採択された参加11チーム

	アイデア名	チームメンバー	メンター
1	草を踏んで管理するロボット (不整地用小型キャタピラー)	<ul style="list-style-type: none"> 嘉数 正人 / 株式会社CuboRex COO (事業) 小川 貴之 / 株式会社CuboRex (事業) 桶脇 誠治/株式会社CuboRex 川上 泰昌/ (株)舗材サービス 取締役(林業) 	杉山 慎 (株)Spero 取締役兼CTO
2	原木と木材の対話型オンライン市場 (木材のサプライチェーン・トレイサビリティ)	<ul style="list-style-type: none"> 早川 慶朗/(株)Andeco 代表(事業) 廣永 拓男/山口県職員 (林業) 鈴木 龍彦/ヤモリーズ (林業) 近藤 友宏/(株)シンラテック 代表 (林業) 	小山内靖 三重エネウッド(株) 取締役所長
3	林業に特化した事務支援事業 (企業評価つき林家・地域 就職ポータル)	<ul style="list-style-type: none"> 奥川 季花/ソマノベース代表 (事業) 徳永 勇人/かいろう基山 (林業) 	幸田 泰尚 (株)クラウドリアルティ執行役員
4	ARを用いた新しい林業styleの提供 (子供向けの林業・一次産業ゲーム)	<ul style="list-style-type: none"> 河田 恒雄/山口県西部森林組合 参事 (林業) 宮野 貴行 /Atlas Associates(株) 代表 (林業) 廣永 拓男/山口県職員 	タキザワ ケイタ PLAYWORKS Inc. 代表
5	山林で行うサバイバルゲーム事業 (木材の個性・価値定義と流通プラットフォーム)	<ul style="list-style-type: none"> 渡部 真之助/細川木材(株) (林業) 蛭間 祐介/渋川広域森林組合 (林業) 勝 泉貴/本田技研(事業) 	池森 裕毅 (株)tsam 代表取締役
6	民間フォレスターによる市町村行政支援事業 (フォレスター再定義とキャリア支援プラットフォーム)	<ul style="list-style-type: none"> 小森 胤樹 /ぎふフォレスター協会 代表理事(林業) 	中間 康介 (株)GREEN FORESTERS 取締役
7	林業事業体における可処分時間の収益化事業 (林業事業体の雨降り対策と収益化)	<ul style="list-style-type: none"> 平井 賢治/あじさい木工(合) 代表 (事業) 水出 力/(有)檜原愛林 現場代理人 (林業) 小澤 一輝/林野庁職員(林業) 	confidential 某大手外資コンサル
8	山から育む子ども達の未来と日本の食 (原木椎茸のリブランディングとフランチャイズ展開)	<ul style="list-style-type: none"> 武久 景子 / 株式会社武久 代表 (林業) 温 世堅 / 株式会社CIRCL 代表 (事業) 	鴨志田 由貴 作戦本部(株) 代表取締役
9	担い手育成の為にどんぐりを活用した教育コンテンツ (森林産業化と法人・学校のSDGs教育)	<ul style="list-style-type: none"> 井上 雅也/ 株式会社タカショー (事業) 衣笠 拓也/ 班長 (林業) 	杉山 泰彦 /根羽村 プロデューサー
10	竹など小型バイオマス発電ソリューション (竹など小型バイオマス発電装置ライセンス)	<ul style="list-style-type: none"> 荒木康孝/ Verde Energia設立準備中(事業) 石倉 悠裕 /林野庁職員 (林業) 	confidential 某大手広告会社
11	林業とシナジーする事業創出：森林でのフィットネス (森林ファンド)	<ul style="list-style-type: none"> 西田 浩之 /西田林業 代表 (事業・林業) 高野 いずみ/林野庁職員 (林業) 	田中 ブラッドリー グローナーズ・キャピタル代表

1 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の背景

- 1-1) 林業にオープンイノベーションが必要な背景
- 1-2) イノベーションを生み出すサイクル
- 1-3) 他産業・他技術との交流が少ない林業界
- 1-4) 異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション
- 1-5) SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト
- 1-6) 二つのプロセス支援で事業を創出

2 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の実施概要

- 2-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要
- 2-2) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ
- 2-3) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ(詳細)

3 SFA2020の実施詳細：募集準備

- 3-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION WEBのリニューアル
- 3-2) 林業・森林づくりにおける課題マップの作成（第1期SFAの微修正）
- 3-3) 映像の作成と公開

4 SFA2020の実施詳細：募集

- 4-1) 募集要項 詳細
- 4-2) 募集結果
- 4-3) チームマッチング面談とチーム組成
- 4-4) 採択された参加11チーム

5 SFA2020の実施詳細：キックオフ

- 5-1) キックオフ開催
- 5-2) 「新規事業創出」講義資料一部
- 5-3) 「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル
- 5-4) 「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

6 SFA2020の実施詳細：伴走支援

- 6-1) リーンスタートアップ手法の導入
- 6-2) 2か月間の手厚いメンタリング伴走支援
- 6-3) メンター経歴一部
- 6-4) 林業フィールド・林業パートナーの用意

7 SFA2020の実施詳細：中間研修

- 7-1) 中間研修の開催
- 7-2) 中間研修の先輩起業家講演
- 7-3) メンターパネルディスカッション
- 7-4) 模擬ピッチとメンター（模擬審査員）によるフィードバック

8 SFA2020の実施詳細：デモデイ

- 8-1) デモデイの開催 概要
- 8-2) デモデイの審査員
- 8-3) デモデイ当日の様子 1
- 8-4) デモデイ当日の様子 2
- 8-5) 予選ピッチで決勝に進出した5チーム
- 8-6) デモデイ優勝チーム

9 受賞者の事業化の動き

- 9-1) 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援
- 9-2) 株式会社フォレストーリー の事業化の動き
- 9-3) 株式会社ソマノベース（会社登記は4月予定）事業化の動き

10 取りまとめと総括：

- 10-1) 第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価
- 10-2) 他、SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の気づき
- 10-3) 課題まとめと次年度以降の施策
- 10-4) SFA2020参加者アンケート結果 サマリ
- 10-5) アンケート ポジティブフィードバック 1
- 10-6) アンケート ポジティブフィードバック 2
- 10-7) アンケート ポジティブフィードバック 3
- 10-8) アンケート ポジティブフィードバック 4



キックオフ開催

- 2020/8/23、新型コロナウイルスの影響を受け、参加者全員参加のキックオフは、オンライン開催した。
- 13時から18時に渡る半日イベントで、新規事業開発の講義・ワークショップ、昨年の優勝者One Greenによるパネル、百森社・GREEN FORRESTERS・中川による林業パネル、などのコンテンツを提供した。
- 新規事業開発講座では、前年度第1期SFAの学びから、参加者の理解を促進するために、林業の新規事業案の事例や、前年度参加者のチームの事例を多用しながら行った。
- 200ページにわたるSpero社の新規事業開発講義の資料を、参加者に配布した。

キックオフのアジェンダ

開会・趣旨説明

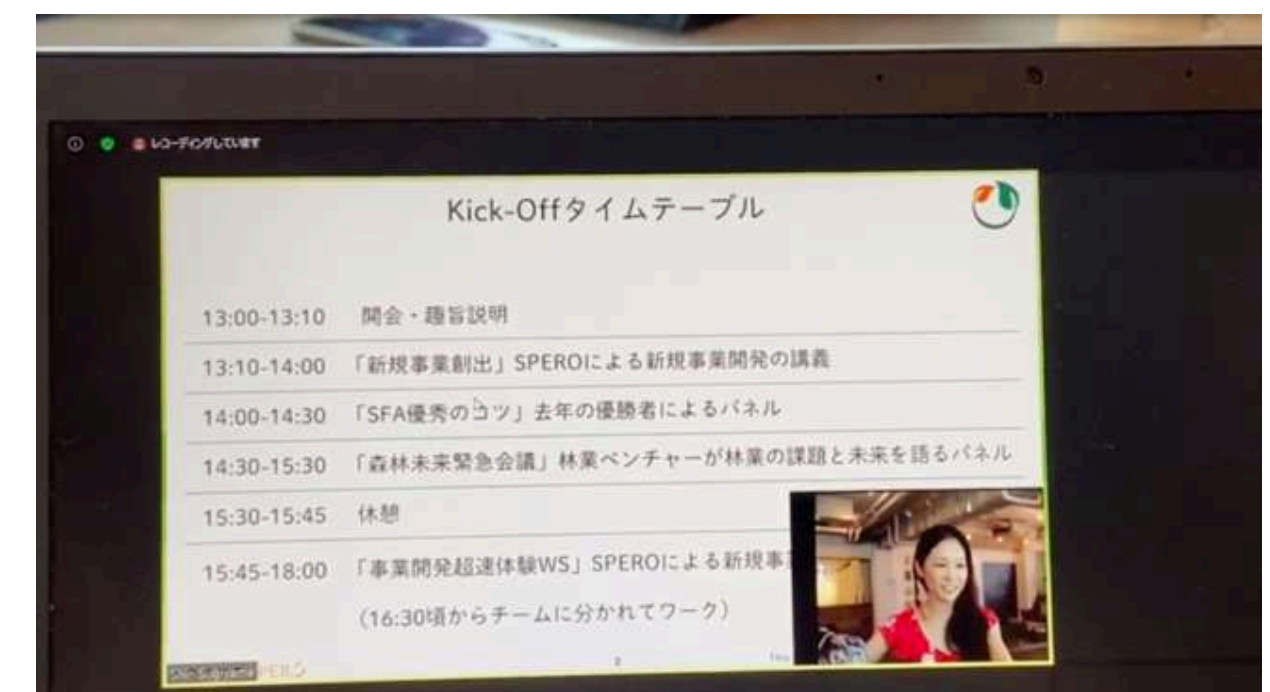
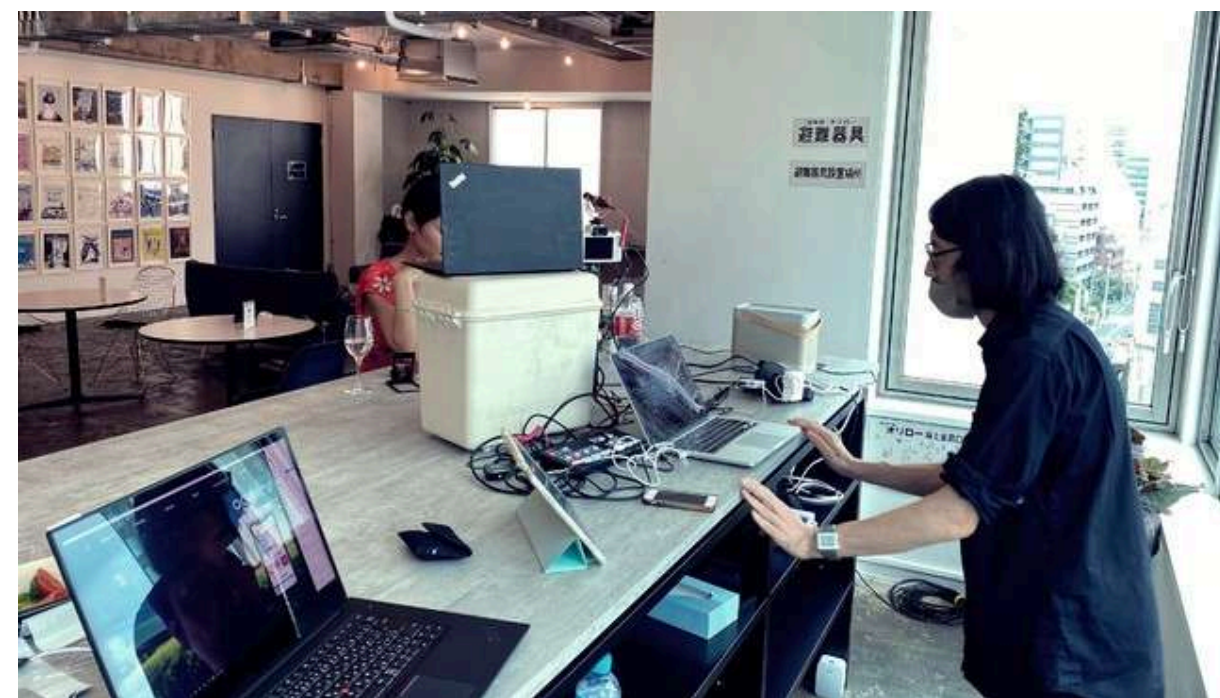
「新規事業創出」SPEROによる新規事業開発の講義

「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル

「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

「事業開発超速体験WS」SPEROによる新規事業のワークショップ

(16:30頃からチームに分かれてワーク)

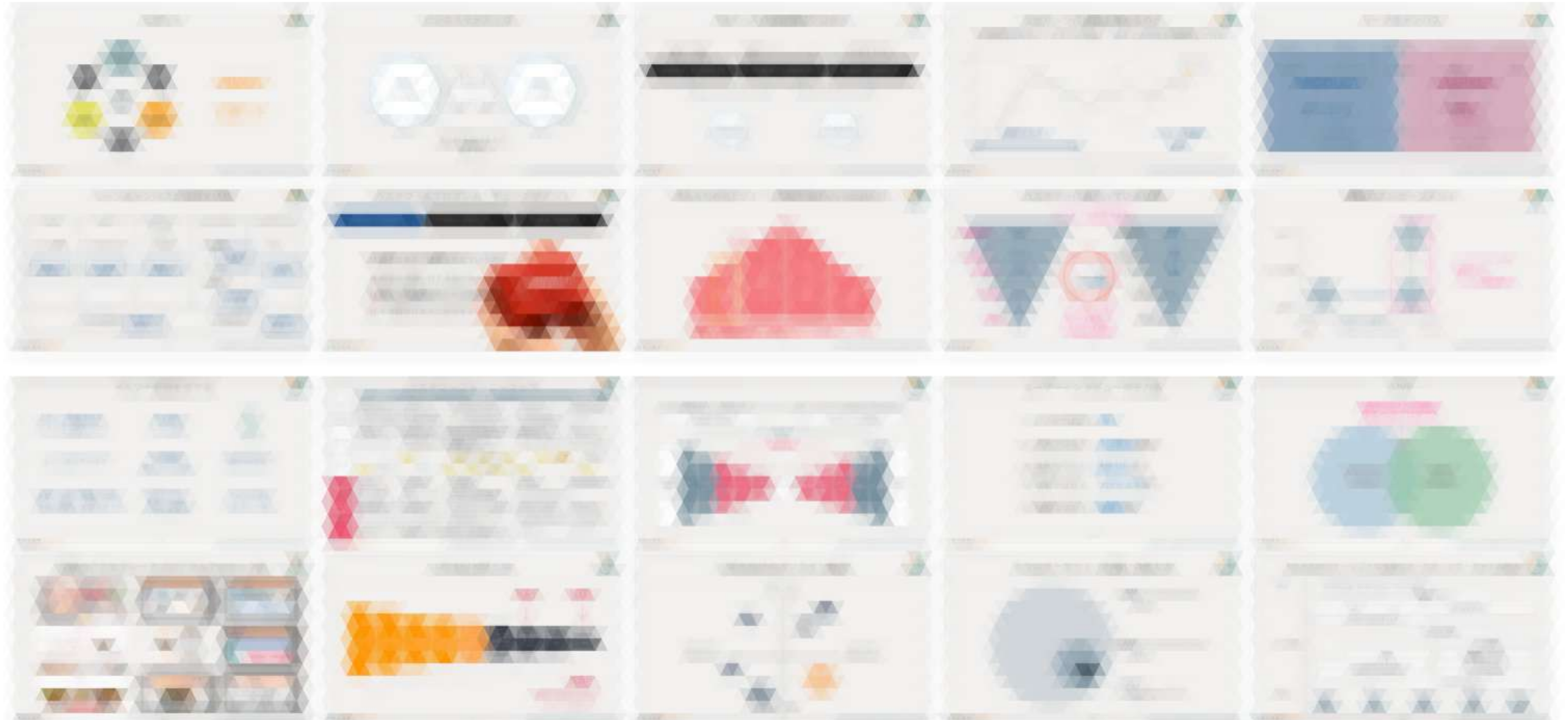


写真は、オンライン対応のオペレーションを行うSpero社の技術担当CTO杉山（左上）、キックオフ開会の画面（右上）、オンラインオペレーション時のPC画面（左下）



「新規事業創出」 講義資料一部

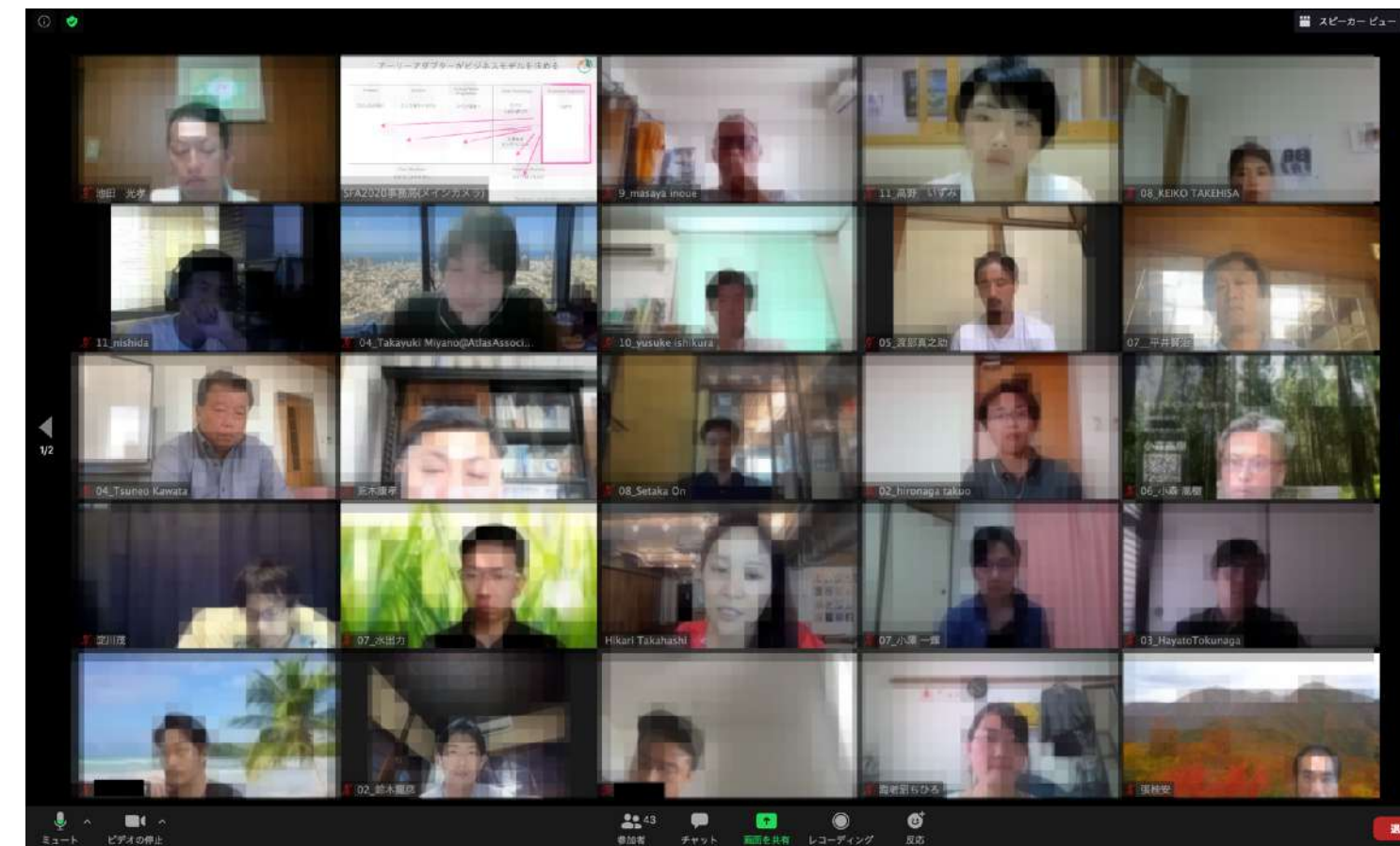
Spero社による、事業開発に必要な要素を凝縮した新規事業開発講座





「SFA優秀のコツ」 去年の優勝者によるパネル

- 前年度第1期SFAの優勝チームである株式会社OneGreenの上原 郁磨氏と田中 優哉氏(林野庁職員)によるパネルディスカッションを行なった。
- 上原氏と田中氏は、「SFA優秀のコツ」として、事業開発において、自分たちの思い込みや仮説に固執せず、迅速にアイデアを検証して行くことが重要であることや、林業従事者と事業開発者のスキルセットや背景の違いを理解し互いの声に耳を傾けるチームビルディング方法などを伝えた。
- 林野庁職員の田中 氏からは参加者に、SFAという挑戦の場の楽しさを伝え、エールを送った。



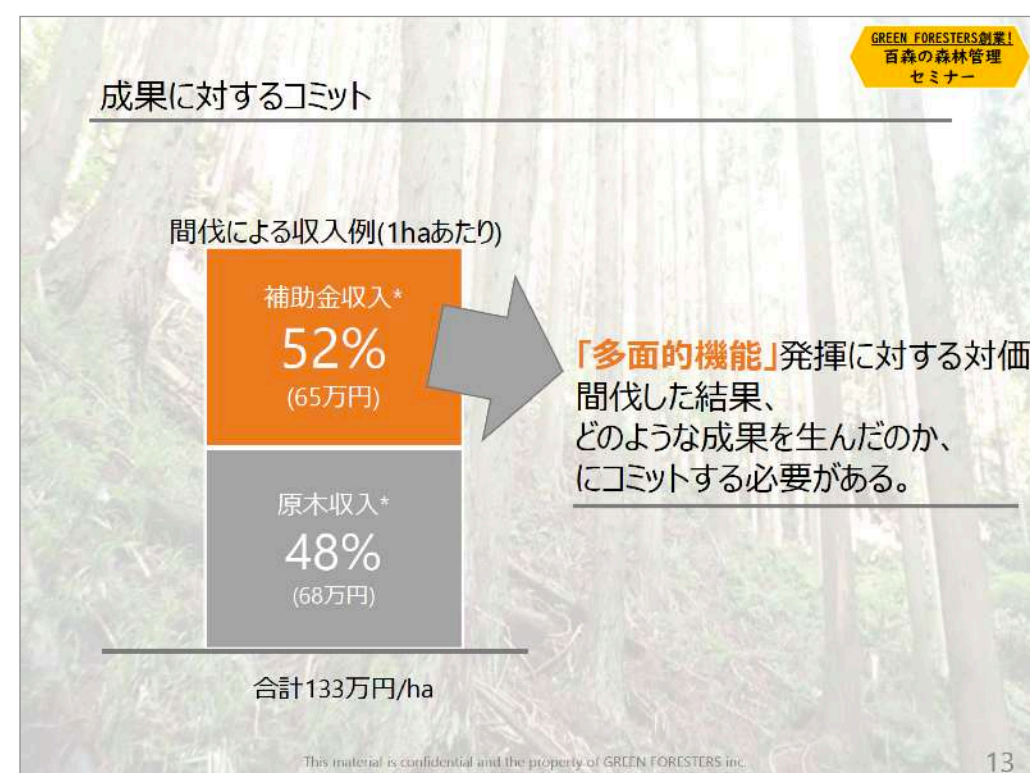
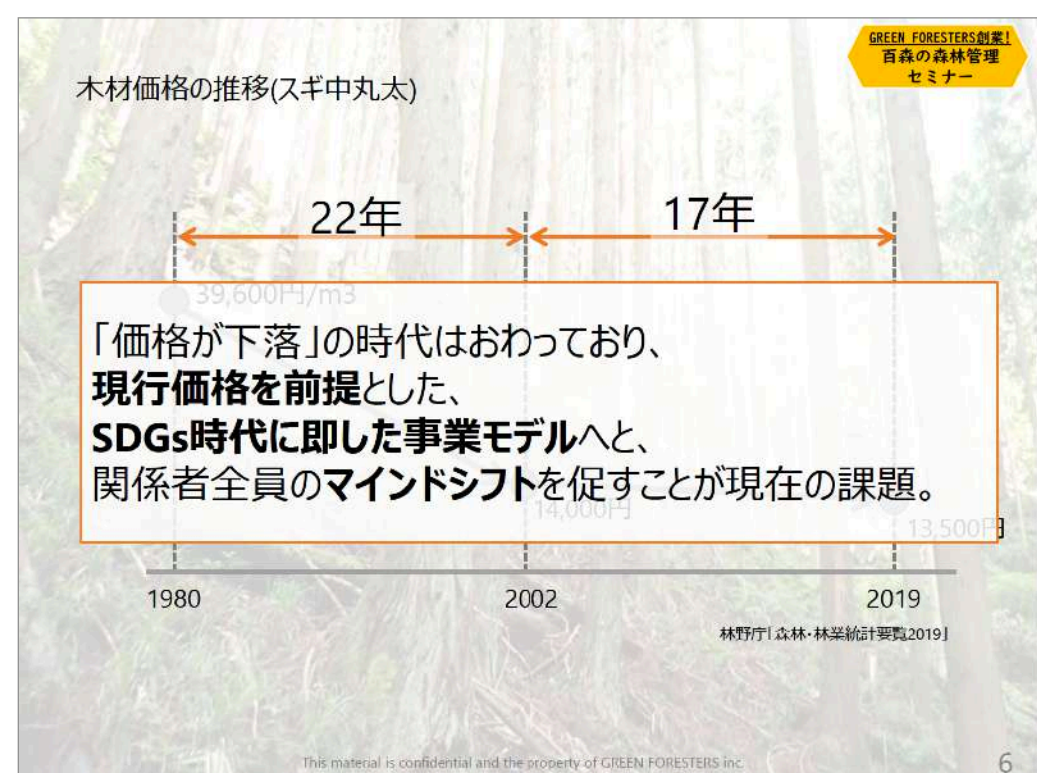
左から順に
株式会社OneGreen
上原 郁磨
林野庁職員
田中 優哉
聞き入る参加者



「森林未来緊急会議」

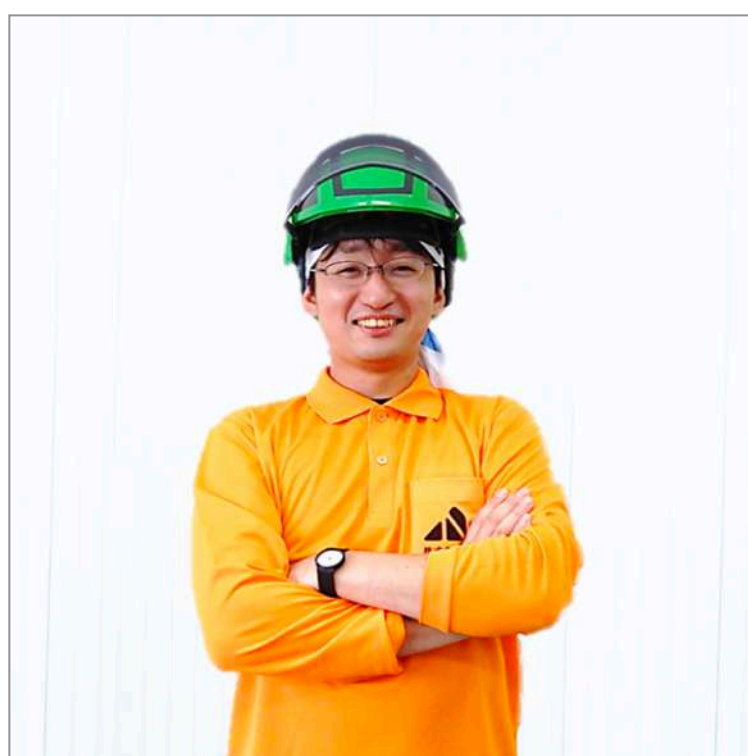
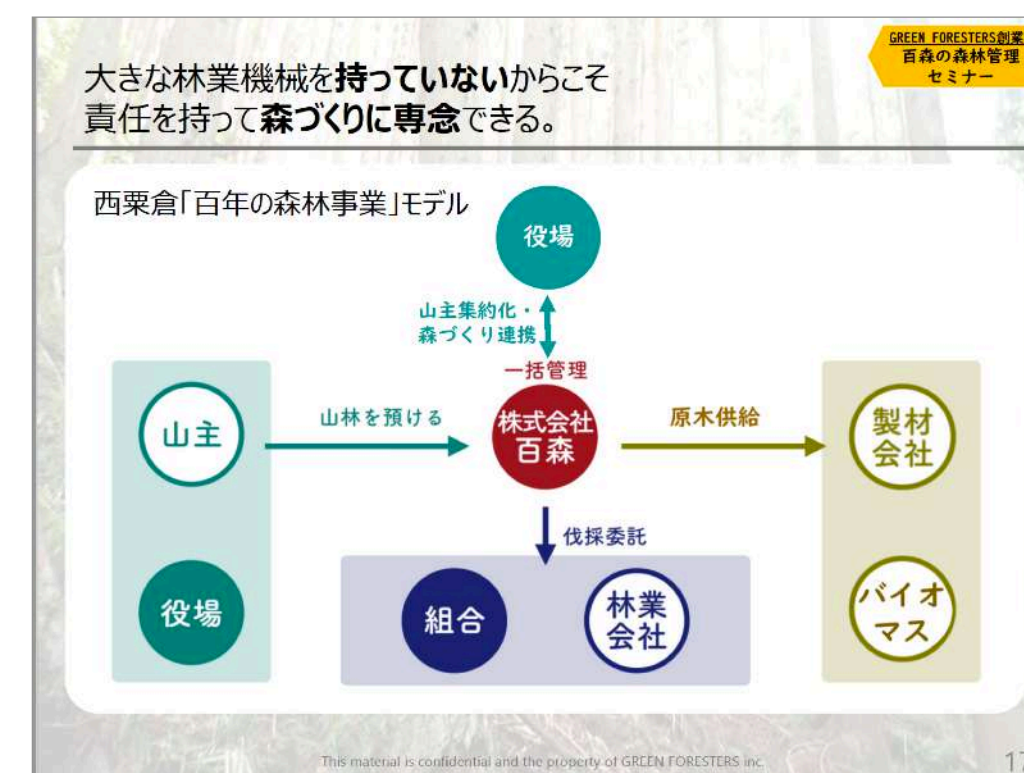
林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

- 株式会社百森の代表取締役 中井 照大郎氏、株式会社GREEN FORESTERS の取締役 中間 康介氏、株式会社中川の杉浦 義隆氏による林業パネルを行なった。
- 木材価格の変動から、林家の収入、林業ステークホルダーの話など林業業界の課題全般と、その中で、百森、GREEN FORESTERS及び中川の、先進的な取り組みを行うにあたってのマインドセットや施策などを話した。



必要なマインドシフトとは

旧来型 林業	新時代の林業	必要な変化	
原木	商品	原木と森自体	事業目的の再定義
無節で通直完満な丸太の生産	存在意義	木材と多面的機能の最大化	森林のデザインと実行力をもつ
山主	受益者	山主だけでなく社会全体	山主は、顧客から事業パートナーへ



左から順に

株式会社中川 杉浦 義隆

株式会社百森 代表取締役 中井 照大郎

株式会社GREEN FORESTERS 取締役 中間 康介

1 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の背景

- 1-1) 林業にオープンイノベーションが必要な背景
- 1-2) イノベーションを生み出すサイクル
- 1-3) 他産業・他技術との交流が少ない林業界
- 1-4) 異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション
- 1-5) SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト
- 1-6) 二つのプロセス支援で事業を創出

2 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の実施概要

- 2-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要
- 2-2) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ
- 2-3) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ(詳細)

3 SFA2020の実施詳細：募集準備

- 3-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION WEBのリニューアル
- 3-2) 林業・森林づくりにおける課題マップの作成（第1期SFAの微修正）
- 3-3) 映像の作成と公開

4 SFA2020の実施詳細：募集

- 4-1) 募集要項 詳細
- 4-2) 募集結果
- 4-3) チームマッチング面談とチーム組成
- 4-4) 採択された参加11チーム

5 SFA2020の実施詳細：キックオフ

- 5-1) キックオフ開催
- 5-2) 「新規事業創出」講義資料一部
- 5-3) 「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル
- 5-4) 「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

6 SFA2020の実施詳細：伴走支援

- 6-1) リーンスタートアップ手法の導入
- 6-2) 2か月間の手厚いメンタリング伴走支援
- 6-3) メンター経歴一部
- 6-4) 林業フィールド・林業パートナーの用意

7 SFA2020の実施詳細：中間研修

- 7-1) 中間研修の開催
- 7-2) 中間研修の先輩起業家講演
- 7-3) メンターパネルディスカッション
- 7-4) 模擬ピッチとメンター（模擬審査員）によるフィードバック

8 SFA2020の実施詳細：デモデイ

- 8-1) デモデイの開催 概要
- 8-2) デモデイの審査員
- 8-3) デモデイ当日の様子 1
- 8-4) デモデイ当日の様子 2
- 8-5) 予選ピッチで決勝に進出した5チーム
- 8-6) デモデイ優勝チーム

9 受賞者の事業化の動き

- 9-1) 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援
- 9-2) 株式会社フォレストーリーの事業化の動き
- 9-3) 株式会社ソマノベース（会社登記は4月予定）事業化の動き

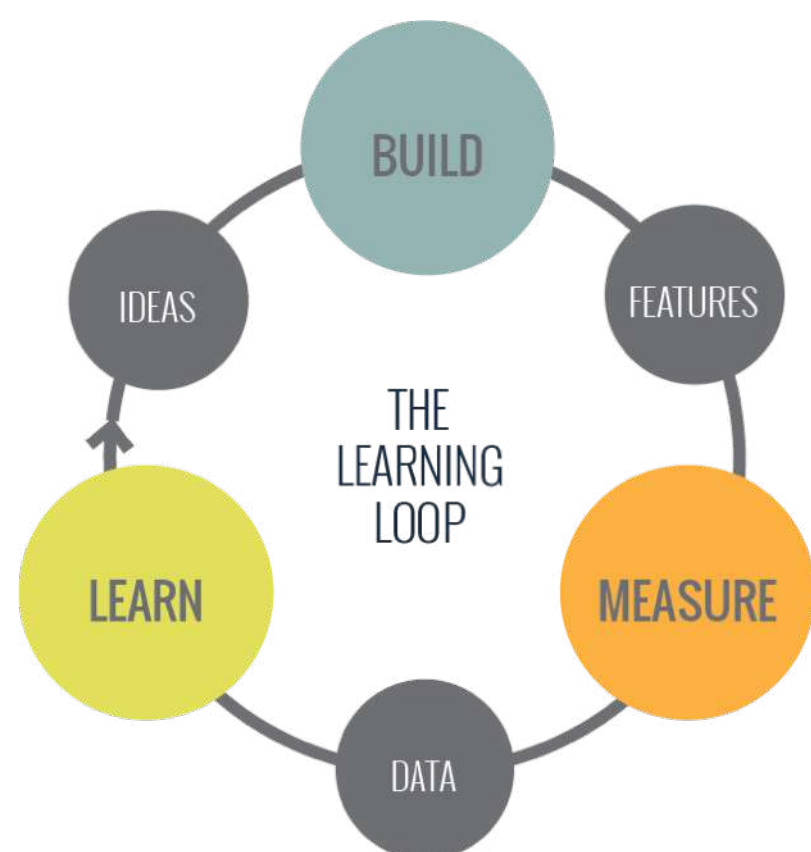
10 取りまとめと総括：

- 10-1) 第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価
- 10-2) 他、SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の気づき
- 10-3) 課題まとめと次年度以降の施策
- 10-4) SFA2020参加者アンケート結果 サマリ
- 10-5) アンケート ポジティブフィードバック 1
- 10-6) アンケート ポジティブフィードバック 2
- 10-7) アンケート ポジティブフィードバック 3
- 10-8) アンケート ポジティブフィードバック 4



リーンスタートアップ手法の導入

- 事業開発手法に、BUILD(作って)、MEASURE(測って)、LEARN(学ぶ)を繰り返し、顧客ニーズを検証しながら、効率的に事業を開発していくリーンスタートアップ手法を導入した。
- ➔ 本手法により、林業課題解決と顧客ニーズの両者を満たす事業モデルの確立の角度が上がる。

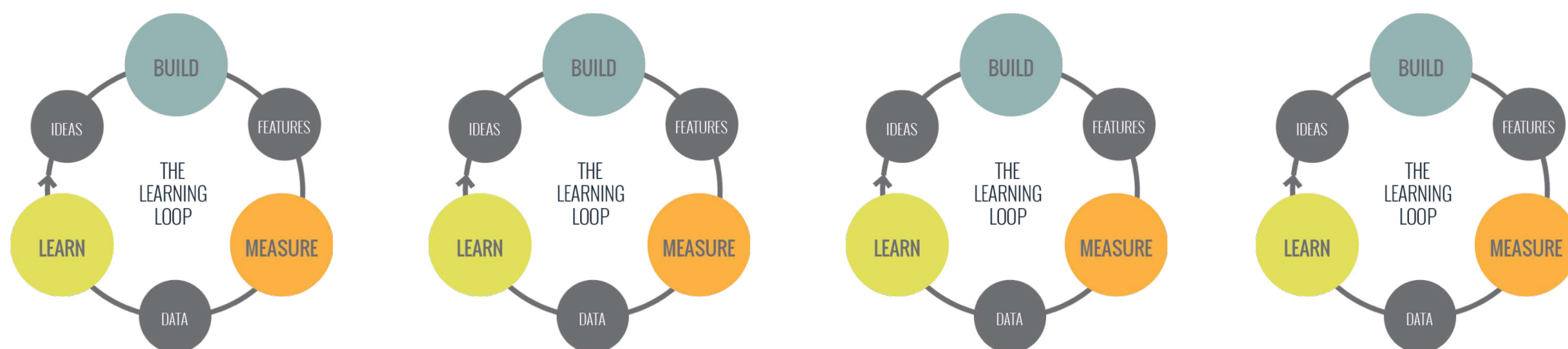


リーンサイクル

リーンスタートアップでは、
BUILD(作って)、MEASURE(測って)、
LEARN(学ぶ)を繰り返し検証する

リーンキャンバス

リーンスタートアップを効率よく
進めるためのフレームワーク



事業開発 伴走支援期間 (約2ヶ月間)

Customer / Problem Fit		Problem / Solution Fit		Product / Market Fit
Problem ②どんな課題を	Solution ③どう解決するのか	Unique Value Proposition ④何が価値で	Unfair Advantage ⑤何が圧倒的優位性	Customer Segments ①誰の
		Channels ⑥顧客はどう見つけるか		
Cost Structure ⑦どうコストを使い			Revenue Streams ⑧どう儲けるのか	

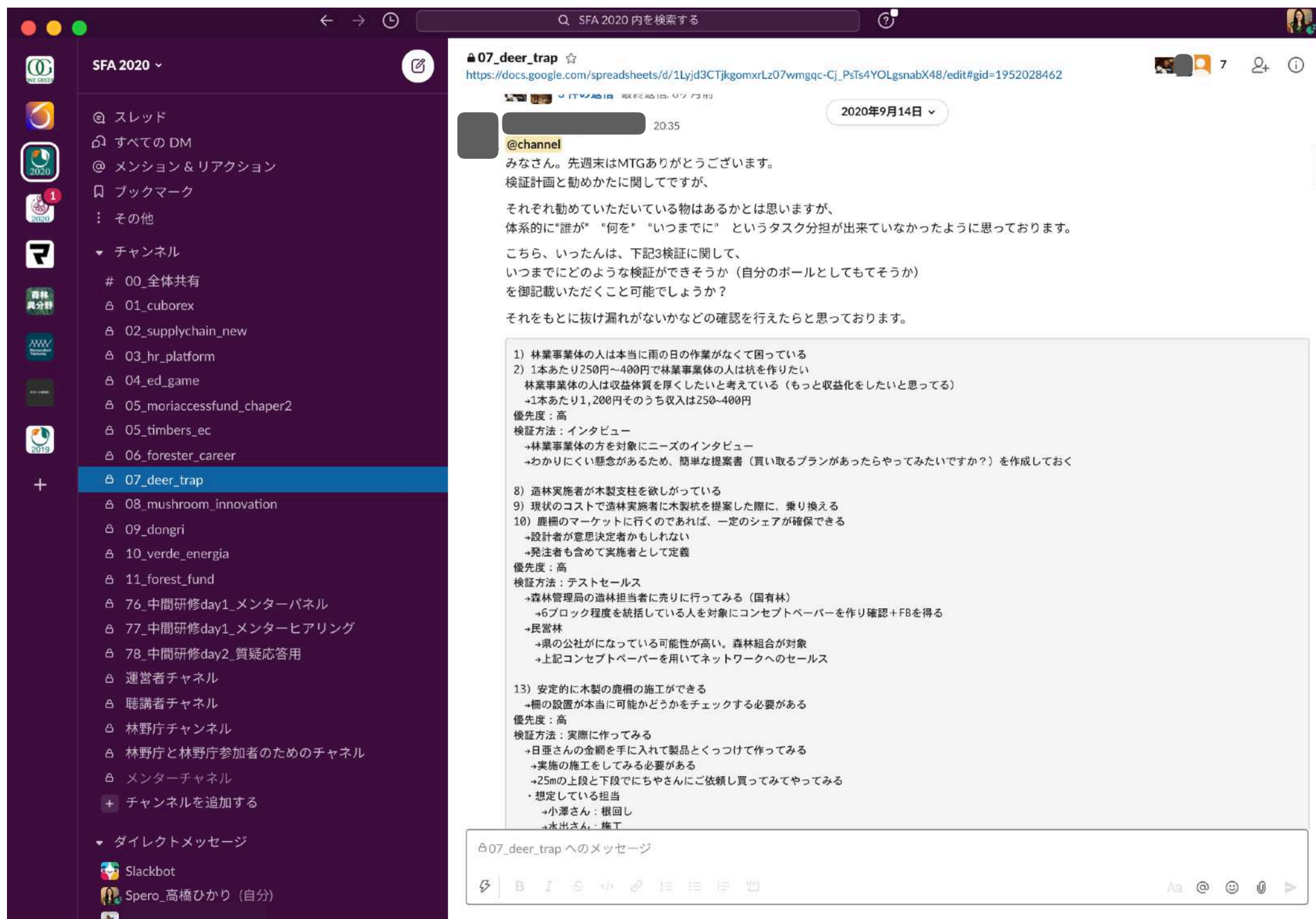
6. SFA2020の実施詳細：伴走支援



2 か月間の手厚いメンタリング伴走支援

- **伴走支援メンター**：1 チームあたり一人ずつ、新規事業開発経験のある事業メンターをつけ、一週に一度のZOOMメンタリングとSlackなどによるコミュニケーションで伴走支援した。
- **メンタリングにてゴール確認**：顧客ニーズ検証、マーケティング、財務計画、体制戦略計画、ビジネスモデル構築など、この2ヶ月間で、達成したい目標のゴールを決めて、KGI、KPIを仮設定し、デモデイまでに検証を重ねた。

メンターのSlackによるコミュニケーション



メンター一覧

アイデア名	メンター名
不整地用小型キャタピラー	杉山 慎 (株)Spero 取締役兼CTO
木材のサプライチェーン・トレイサビリティ	小山内靖 三重エネウッド(株) 取締役所長
企業評価つき林家・地域 就職ポータル	幸田 泰尚 (株)クラウドリアルティ 執行役員
子供向けの林業・一次産業ゲーム	タキザワ ケイタ PLAYWORKS Inc. 代表
木材の個性・価値定義と流通プラットフォーム	池森 裕毅 (株)tsam 代表取締役
フォレスター再定義とキャリア支援プラットフォーム	中間 康介 (株)GREEN FORESTERS 取締役
林業事業体の雨降り対策と収益化	confidential 某大手外資コンサル
原木椎茸のブランディングとフランチャイズ展開	嶋志田 由貴 作戦本部(株) 代表取締役
森林産業化と法人・学校のSDGs教育	杉山 泰彦 /根羽村 プロデューサー
竹など小型バイオマス発電装置ライセンス	confidential 某大手広告会社
森林ファンド	田中 ブラッドリー グローナース・キャピタル代表

6. SFA2020の実施詳細：伴走支援



メンター 一部 経歴

<p>杉山 慎 (株)Spero 取締役兼CTO</p>		<p>ハードウェア技術者として任天堂株式会社入社の際、世界累計出荷台数1億台のゲーム機Wiiリモコンの開発に従事。並行してWiiの周辺機器であるマイク・カメラなどのUSBデバイス各種のハードウェア・ドライバを開発に携わる。「Switch」の本体開発に携わった後、2016年独立。同年、ハードウェアの新規事業支援事業「合同会社あっち」を設立。2016年、ハードウェアスタートアップ企業Atmosph株式会社参画。主にハードウェア・ファームウェアに関する技術支援、生産管理、修理サービス運用を行う。2017年、中西金属工業株式会社の新規事業創出のための企業内起業に参画。2019年グッドデザイン賞のBEST100賞を受賞した「Clean Box」に、0からのコンセプト設定、ラピッドプロトタイピング、ハードウェアに関する技術支援を行う。</p>
<p>小山内靖 三重エネウッド(株) 取締役所長</p>		<p>2004年に慶應義塾大学大学院理工学研究科にて後期博士課程修了（博士（工学））。大阪大学大学院での特任研究員勤務の後に共同研究先であったバイオベンチャー企業に入社し、研究員から役員になった上で経営業務に携わる。その後、ベンチャーキャピタルバイオ・サイト・キャピタル(株)に入社してベンチャー支援業務を経験する。ベンチャー設立の相談を受けた際に前職を退職し、代表取締役として脳科学香料(株)を設立。脳科学香料(株)を後任に託して独立した時期に、三重県松阪市での木質バイオマス発電プロジェクトを大恩人から紹介され、2012年の三重エネウッド(株)設立前から参画して現在に至る。現在は三重県松阪市に移住し、木質バイオマス発電を基軸にした、地元林業や経済の活性化を目指して活動している。</p>
<p>幸田 泰尚 (株)クラウドリアルティ 執行役員</p>		<p>大学卒業後、商業施設プロデュース会社にて設計職を経た後、リクルート社に転職。不動産メディアのディレクターとしてマーケティング、ブランディング、商品開発に携わった後、新規事業開発室・プロデューサーとして大企業・自治体・スタートアップとの連携事業を推進。また企業勤務する傍ら自らが住む世田谷で2つのNPO団体を立ち上げる。2018年より不動産クラウドファンディングのプラットフォームを運営するクラウドリアルティに参画しマーケティング戦略・実行をリード。</p>
<p>タキザワ ケイタ PLAYWORKS Inc. 代表</p>		<p>オンラインワークショップデザイナー／インクルーシブデザイナー／プロジェクトファシリテーター オンラインワークショップを通じて、新規事業・組織開発・人材育成など、企業が抱えるさまざまな問題を解決へと導く。また、多様なプロフェッショナルからなるプロボノチーム「PLAYERS」のリーダーとして、妊婦や障害者など手助けを必要とする人と周囲の人をLINEでマッチングするサービス「&HAND」や、テクノロジーで点字ブロックをアップデートする「VIBLO」の社会実装などを進めている。</p>
<p>池森 裕毅 (株)tsam 代表取締役</p>		<p>株式会社tsam代表取締役。情報経営イノベーション専門職大学 客員教授。2005年に株式会社ポケットを、2011年に株式会社フリックを立ち上げる。両社はそれぞれ、10年、2年、経営後に売却。現在は2019年に立ち上げた株式会社tsamにてスタートアップの支援を行う。コンサルティングをメイン事業とし、また業務の一環として複数のアクセラレーションプログラムにてメンターを務める。手掛けたプロダクトにて多数の賞を授与。2020年には株式会社エリンギを立ち上げ、オンラインイベントプラットフォームエリンギの運営を行う。</p>
<p>中間 康介 (株)GREEN FORESTERS 取締役</p>		<p>九州大学大学院森林資源科学専攻修了後、(株)野村総合研究所にて官民連携プロジェクトの制度設計等を担当。その後独立し、スタートアップにて介護関連事業の立ち上げに従事した後、経済産業省、林野庁等のスタートアップ支援政策の事務局に参画。(一社)Pnika理事、(株)GREEN FORESTERS取締役を兼任。スタートアップ支援の制度設計側と、スタートアップの事業開発側の両方の経験を基に、(一社)社会実装推進センターの代表理事として、プロジェクトマネジメント業務を主導する。</p>
<p>鳴志田 由貴 作戦本部(株) 代表取締役</p>		<p>得意分野は事業開発・メディア開発・新商品開発。営業戦略立案～PR/プロモーション戦略立案・実行をカバーすることで「新事業・新商品・新店舗開発」など「0」から「1」を生み出すことを得意とするビジネスプロデューサー。公共空間をリデザインする団体「Re-public Initiative」に参加し、講演・セミナーを開催。現在、産経新聞社 サンケイスポーツ×作戦本部の共同事業でオタクコラムサイトを運営。2014年にJR東日本都市開発と阿佐ヶ谷アニメストリートをプロデュース、商店会長も兼任。また新宿区とは2011年から「新宿クリエイターズ・フェスタ」を開催。</p>



林業フィールド、林業パートナーの用意

- SUSTAINABLE FOREST ACTIONの期間中、いつでもアクセスして、ヒアリングや実証実験を行う事のできる林業フィールドを全国に用意した。

林業場所候補

林業パートナー



1 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の背景

- 1-1) 林業にオープンイノベーションが必要な背景
- 1-2) イノベーションを生み出すサイクル
- 1-3) 他産業・他技術との交流が少ない林業界
- 1-4) 異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション
- 1-5) SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト
- 1-6) 二つのプロセス支援で事業を創出

2 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の実施概要

- 2-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要
- 2-2) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ
- 2-3) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ(詳細)

3 SFA2020の実施詳細：募集準備

- 3-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION WEBのリニューアル
- 3-2) 林業・森林づくりにおける課題マップの作成（第1期SFAの微修正）
- 3-3) 映像の作成と公開

4 SFA2020の実施詳細：募集

- 4-1) 募集要項 詳細
- 4-2) 募集結果
- 4-3) チームマッチング面談とチーム組成
- 4-4) 採択された参加11チーム

5 SFA2020の実施詳細：キックオフ

- 5-1) キックオフ開催
- 5-2) 「新規事業創出」講義資料一部
- 5-3) 「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル
- 5-4) 「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

6 SFA2020の実施詳細：伴走支援

- 6-1) リーンスタートアップ手法の導入
- 6-2) 2か月間の手厚いメンタリング伴走支援
- 6-3) メンター経歴一部
- 6-4) 林業フィールド・林業パートナーの用意

7 SFA2020の実施詳細：中間研修

- 7-1) 中間研修の開催
- 7-2) 中間研修の先輩起業家講演
- 7-3) メンターパネルディスカッション
- 7-4) 模擬ピッチとメンター（模擬審査員）によるフィードバック

8 SFA2020の実施詳細：デモデイ

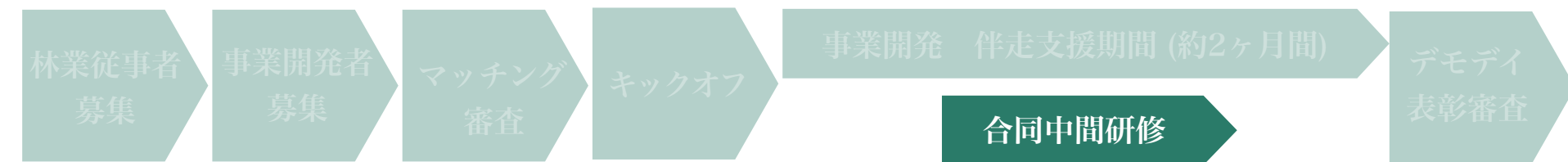
- 8-1) デモデイの開催 概要
- 8-2) デモデイの審査員
- 8-3) デモデイ当日の様子 1
- 8-4) デモデイ当日の様子 2
- 8-5) 予選ピッチで決勝に進出した5チーム
- 8-6) デモデイ優勝チーム

9 受賞者の事業化の動き

- 9-1) 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援
- 9-2) 株式会社フォレストーリー の事業化の動き
- 9-3) 株式会社ソマノベース（会社登記は4月予定）事業化の動き

10 取りまとめと総括：

- 10-1) 第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価
- 10-2) 他、SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の気づき
- 10-3) 課題まとめと次年度以降の施策
- 10-4) SFA2020参加者アンケート結果 サマリ
- 10-5) アンケート ポジティブフィードバック 1
- 10-6) アンケート ポジティブフィードバック 2
- 10-7) アンケート ポジティブフィードバック 3
- 10-8) アンケート ポジティブフィードバック 4



中間研修の開催

- キックオフに引き続き、感染症予防対策として、全面オンラインZOOMにて中間研修を実施した。
- DAY1 (10/3)：先輩起業家（株式会社Moff 代表 高萩 昭範氏）による特別公演、メンターによるパネルのディスカッション、事業計画について詳細の講座、などを提供した。
- DAY2 (10/4)：参加全チームの中間プレゼンと模擬審査員からフィードバックを行った。

中間研修 DAY1のアジェンダ

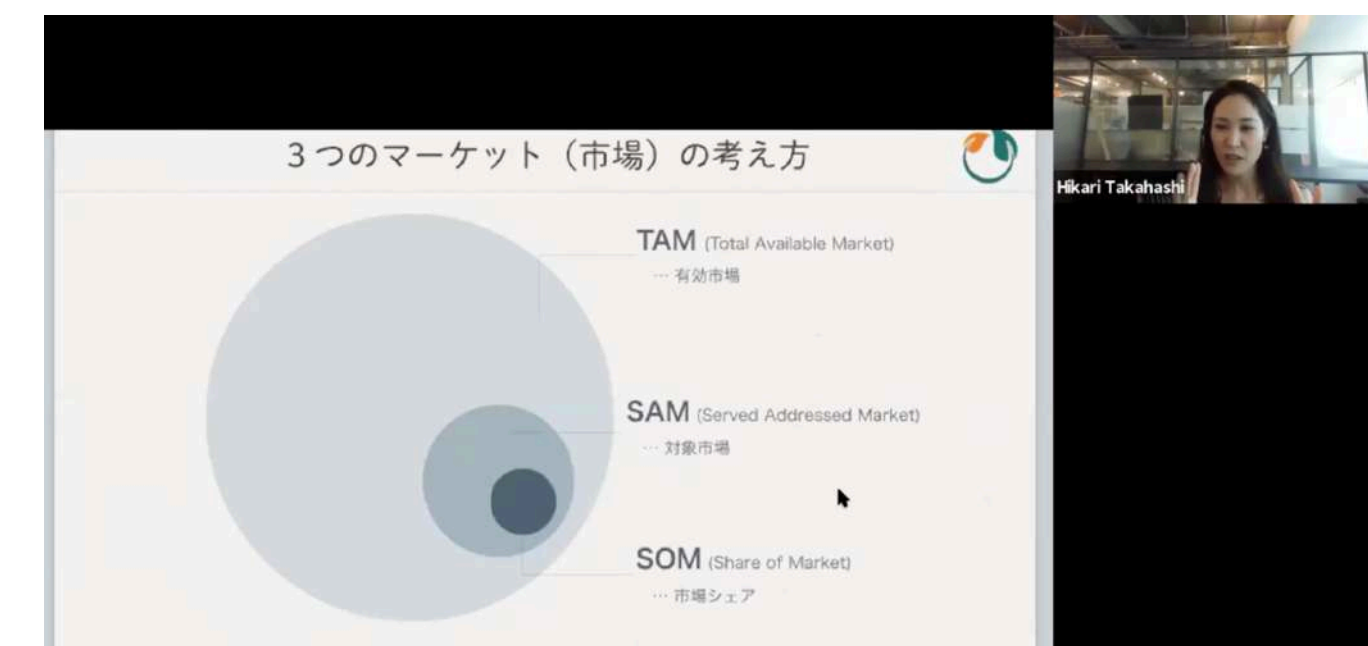
趣旨説明

「先輩起業家講演」株式会社Moff 高萩 昭範氏より

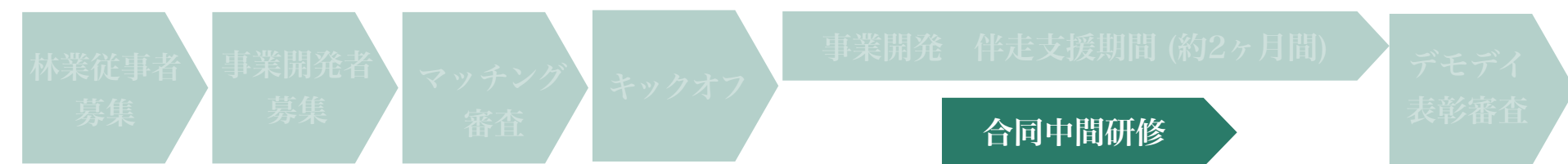
メンターによるパネルディスカッション

プレゼン方法講座、ビジネスモデル、マーケティング戦略

各チームに分かれてワーク、メンターへの相談時間

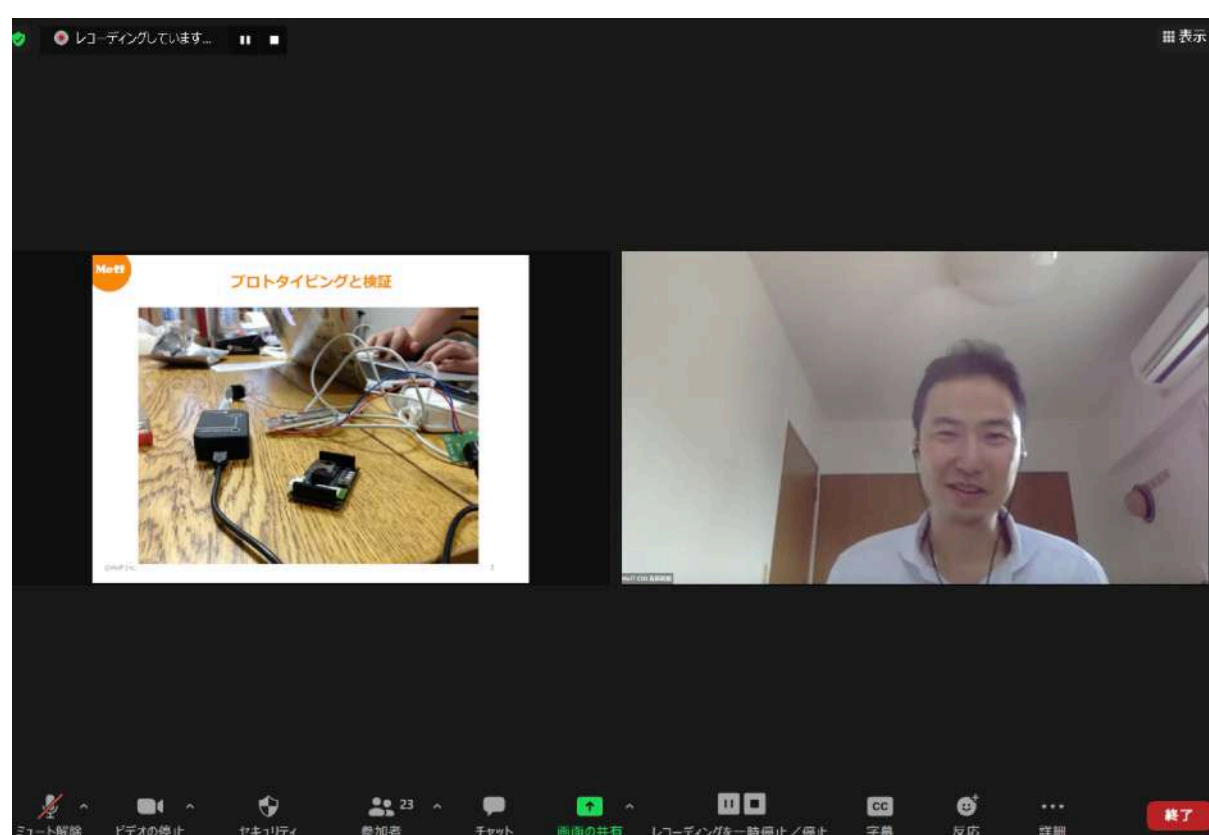


写真は、先輩起業家講演を行う、株式会社Moff代表の高萩 昭範氏、講座を行う株式会社Speroの高橋ひかり



中間研修の先輩起業家講演

- 先輩起業家講演では、株式会社Moff 代表 高萩 昭範氏が、プロダクトの着想からピボット（ニーズなどの壁に直面し、事業内容を変えて行くこと）、事業の取捨選択、チームビルディング、会社の成長まで、赤裸々にプレゼンした。
- 参加者からも質問を受け付け、新規事業開発の考え方やピボットの判断基準まで丁寧に答えた。



先輩起業家講演

プレゼンをする
高萩 昭範氏と

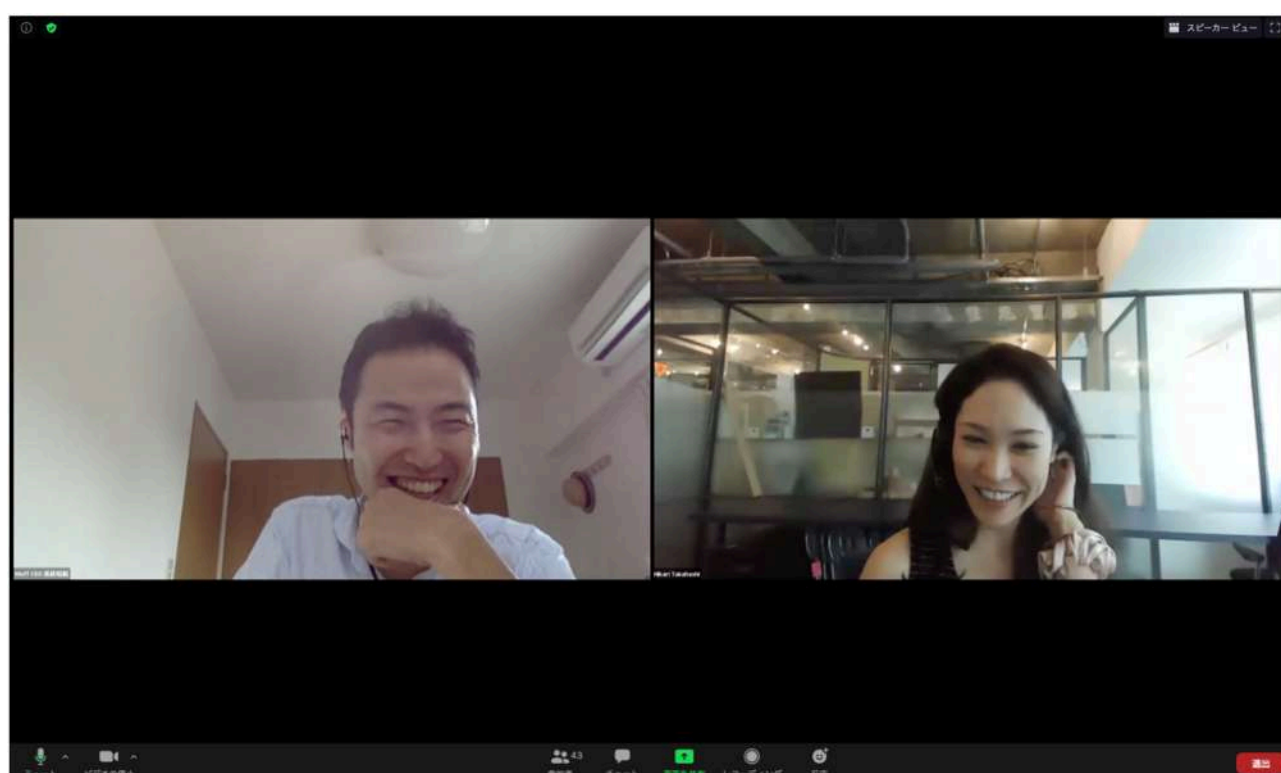
参加者の質問に答える
高萩 氏
(ファシリテートする
Spero高橋)

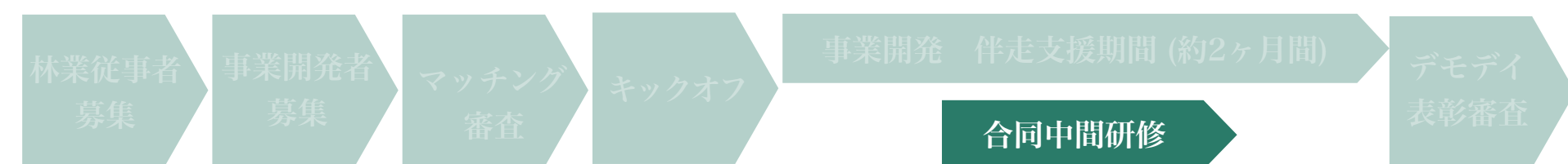
講演者プロフィール

高萩 昭範
株式会社 Moff/代表取締役



経営コンサルティング会社、A. T. カーニー、メルセデス・ベンツ日本 プロダクトマネージャーなどを経て、株式会社Moffを共同創業。リハビリテーション・機能訓練に関わる病院・介護施設向けサービスを開発し、2017年には、自社ウェアラブル端末Moff Bandを活用した高齢者向けのIoTリハビリ/機能訓練「モフトレ」・2018年にはリハビリ見える化「モフ測」を開始し多数の病院・介護施設で導入実績。





メンターパネルディスカッション

- キックオフから中間まで、メンターや参加者から来た質問を踏まえ、参加チームのメンターのうち2名とパネルディスカッションを行い、ユーザー検証やチームビルディングについての課題や工夫を話し、参加者の参考となるようにした。

ユーザー検証

- ユーザーヒアリングは、誰が何人くらいにどうアプローチしているか
- 最初の仮説が訂正されてピボットした事例
- チームの中で、最初のアイデアが仮説である事をどう納得づけて進めているか

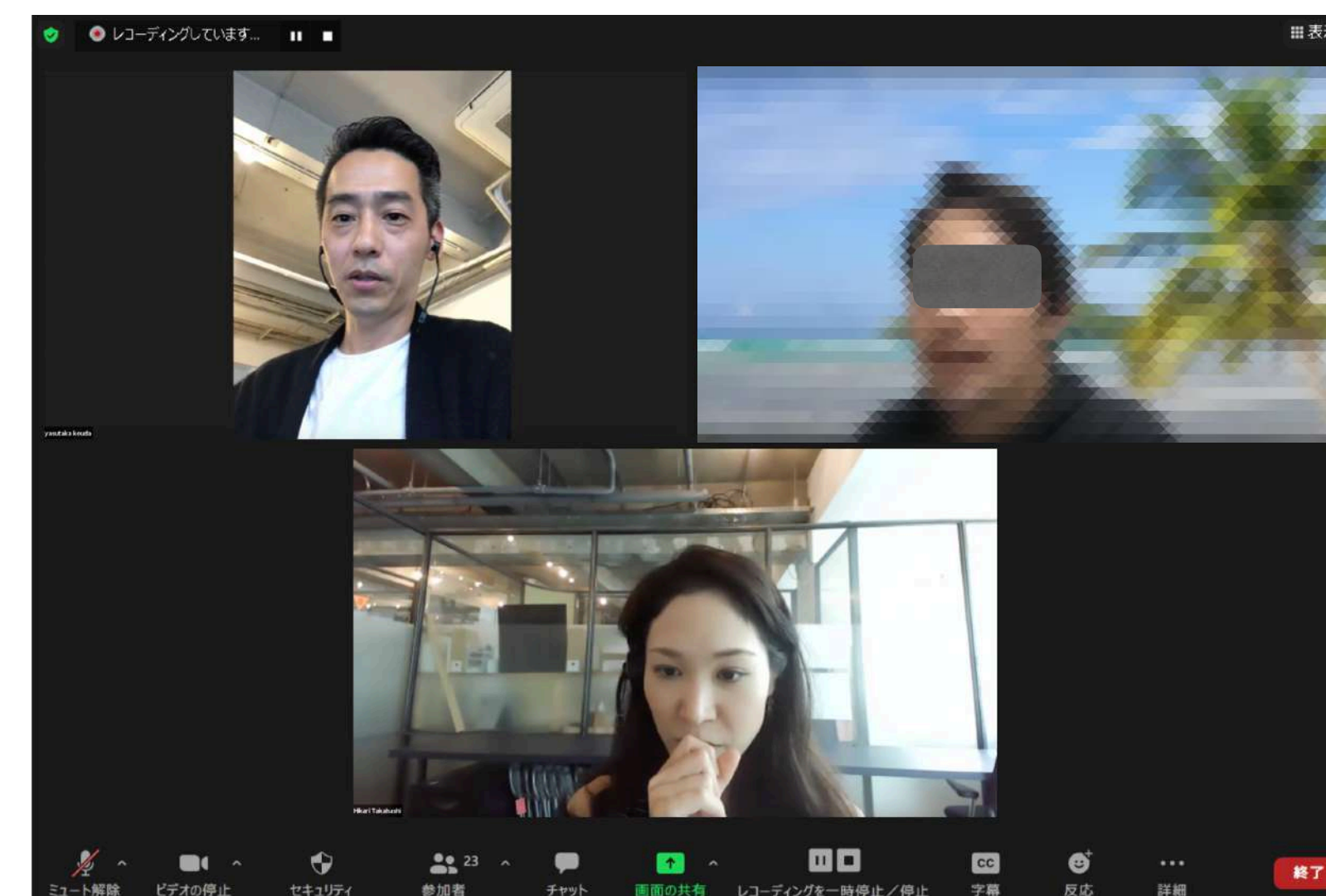
ソリューション開発

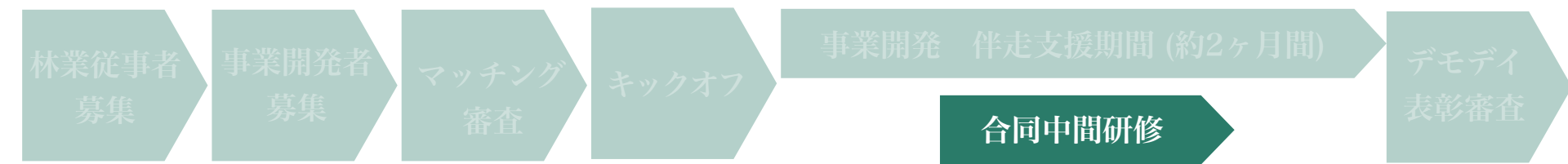
- 事業・サービスの価格はどのように決めていくか
- これからソリューション開発する上で、検証すべき点（課題）になってくるところは？
- （価格、ステークホルダー整理、体制、コストなど）

その他

- ピボットのラストいつにするか（何を持っていけるとするか）
- ユーザー側の開発をしていくときに森林課題から離れていく、どうしたらいいか

メンターパネルディスカッションの様子





模擬ピッチと メンター（模擬審査員）によるフィードバック

- Day2は参加全11チームが、7分の模擬ピッチと、模擬審査員からの5分質疑応答に対応した。
- 模擬ピッチとフィードバックの目的は、①中だるみの防止、②審査員フィードバックを受けることによるプランを精緻化 ③他チームの状況を知ること、デモデイに向けた行動量UPである。



左から順に、中間研修で審査員役として参加した、株式会社tsam 代表取締役 池森 裕毅氏、PCG（ペイシャンスキャピタルグループ）取締役兼投資部長 塗矢 真介氏、三重エネウッド株式会社 取締役所長 小山内 靖氏

🕒 ピッチ（プレゼンテーション）7分発表、5分質疑応答。
 🗨️ 質疑応答の担当者は、塗矢 真介、小山内靖、池森 裕毅、高橋ひかりです。
 🕒 タイムキーピング：ピッチ残り3分と残り1分の時に、ベルを鳴らします。

	プレゼン開始時間	質疑開始時間	終了時間
1 不整地用小型キャタピラー	10:10-	10:17	10:22
2 木材のサプライチェーン・トレイサビリティ	10:23-	10:30	10:35
3 企業評価つき林家・地域 就職ポータル	10:36-	10:43	10:48
4 子供向けの林業・一次産業ゲーム	10:49-	10:56	11:01
5 木材の個性・価値定義と流通プラットフォーム	11:02-	11:09	11:14
6 フォレスター再定義とキャリア支援プラットフォーム	11:15-	11:22	11:27
休憩		11:28-11:35	
7 林業事業体の雨降り対策と収益化（鹿柵）	11:35-	11:42	11:47
8 原木椎茸のリブランディングとフランチャイズ展開	11:48-	11:55	12:00
9 森林産業化と法人・学校のSDGs教育	12:01-	12:08	12:13
10 竹など小型バイオマス発電装置ライセンスング	12:14-	12:21	12:26
11 森林ファンド	12:27-	12:34	12:39

SPERO 7 This material is confidential and the property of SPERO



審査員の質疑応答に答える参加者

1 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の背景

- 1-1) 林業にオープンイノベーションが必要な背景
- 1-2) イノベーションを生み出すサイクル
- 1-3) 他産業・他技術との交流が少ない林業界
- 1-4) 異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション
- 1-5) SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト
- 1-6) 二つのプロセス支援で事業を創出

2 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の実施概要

- 2-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要
- 2-2) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ
- 2-3) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ(詳細)

3 SFA2020の実施詳細：募集準備

- 3-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION WEBのリニューアル
- 3-2) 林業・森林づくりにおける課題マップの作成（第1期SFAの微修正）
- 3-3) 映像の作成と公開

4 SFA2020の実施詳細：募集

- 4-1) 募集要項 詳細
- 4-2) 募集結果
- 4-3) チームマッチング面談とチーム組成
- 4-4) 採択された参加11チーム

5 SFA2020の実施詳細：キックオフ

- 5-1) キックオフ開催
- 5-2) 「新規事業創出」講義資料一部
- 5-3) 「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル
- 5-4) 「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

6 SFA2020の実施詳細：伴走支援

- 6-1) リーンスタートアップ手法の導入
- 6-2) 2か月間の手厚いメンタリング伴走支援
- 6-3) メンター経歴一部
- 6-4) 林業フィールド・林業パートナーの用意

7 SFA2020の実施詳細：中間研修

- 7-1) 中間研修の開催
- 7-2) 中間研修の先輩起業家講演
- 7-3) メンターパネルディスカッション
- 7-4) 模擬ピッチとメンター（模擬審査員）によるフィードバック

8 SFA2020の実施詳細：デモデイ

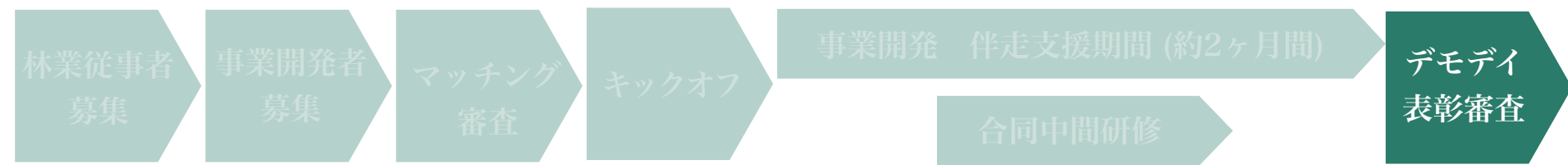
- 8-1) デモデイの開催 概要
- 8-2) デモデイの審査員
- 8-3) デモデイ当日の様子 1
- 8-4) デモデイ当日の様子 2
- 8-5) 予選ピッチで決勝に進出した5チーム
- 8-6) デモデイ優勝チーム

9 受賞者の事業化の動き

- 9-1) 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援
- 9-2) 株式会社フォレストーリー の事業化の動き
- 9-3) 株式会社ソマノベース（会社登記は4月予定）事業化の動き

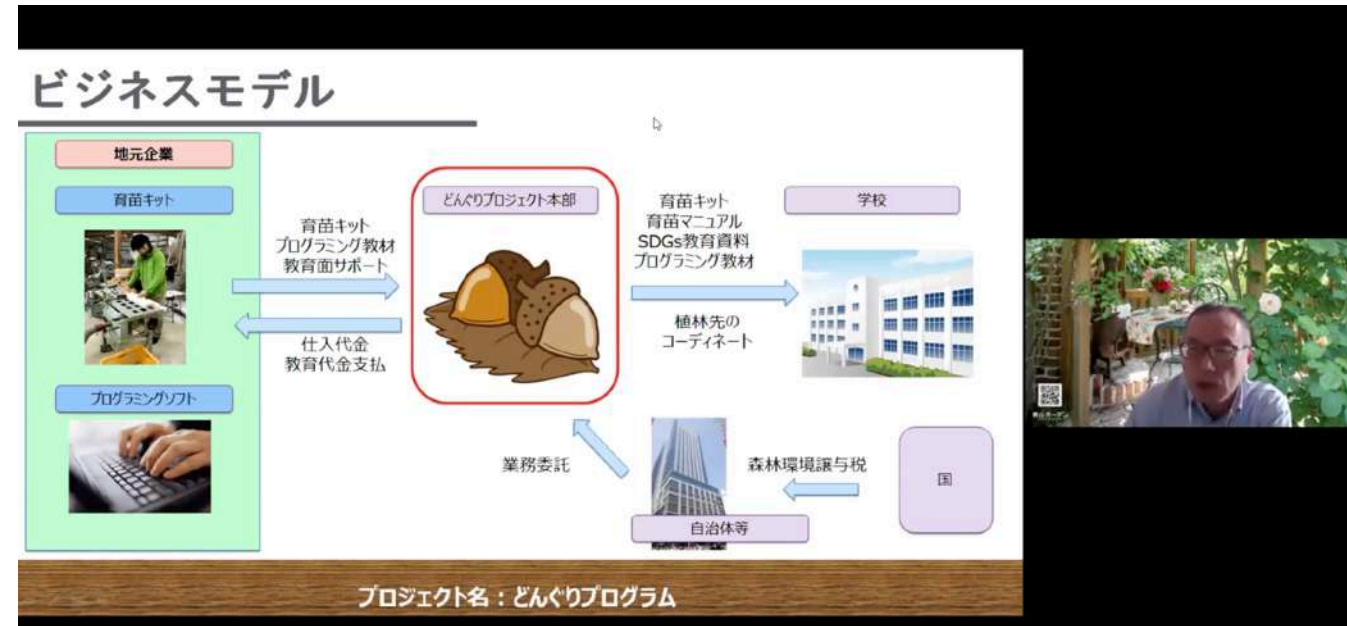
10 取りまとめと総括：

- 10-1) 第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価
- 10-2) 他、SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の気づき
- 10-3) 課題まとめと次年度以降の施策
- 10-4) SFA2020参加者アンケート結果 サマリ
- 10-5) アンケート ポジティブフィードバック 1
- 10-6) アンケート ポジティブフィードバック 2
- 10-7) アンケート ポジティブフィードバック 3
- 10-8) アンケート ポジティブフィードバック 4



デモデイの開催 概要

- 11/1、永田町GridとオンラインZOOMによる同期開催にてデモデイ実施。11チームの最終プレゼンを行った。
- 審査員には、沼 真吾氏（フォレストエナジー）、服部 結花氏（インクルージョン・ジャパン）、陶山 祐司氏（至真庵）を迎え、林業を理解した実業家、投資家、パブリックアフェアーズを理解した支援者が質疑応答と審査を行った。
- 最終審査の結果、優勝チーム（事業化支援する優秀案件）には、「林業に特化した事務支援事業」「山林で行うサバイバルゲーム事業」が選ばれ、森林づくりへの異分野技術導入・実証事業者との繋ぎこみにより、事業化資金200万円を獲得した。



会場・オンラインでデモデイに望む参加者

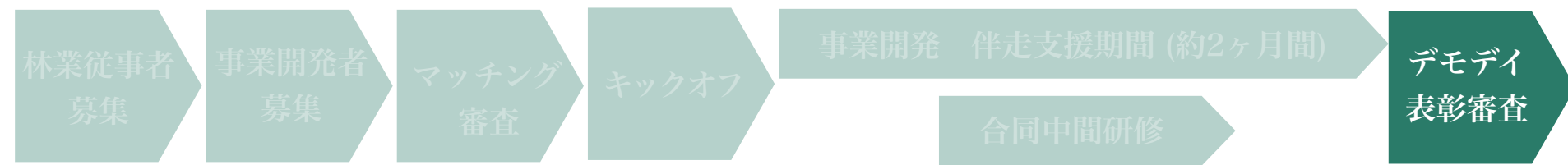
審査基準

- 1) 2ヶ月間で柔軟にアイデア検証したか
- 2) アイデアの実現性
- 3) 持続的に儲かる仕組みか
- 4) 林業の課題解決に繋がる絵が描けているか
- 5) 実現可能なチームか
(機動性、柔軟性、リーダーシップ、スキル)



質疑応答
する
審査員





デモデイの審査員



沼 真吾

フォレストエナジー株式会社 代表取締役社長
 ボルタージャパン合同会社 社長
 バイオマス発電事業者協会 理事/
 竹イノベーション研究会の理事
 誠文堂新光社 社外取締役

2015年にフォレストエナジーを創業。前職くにうみアセットマネジメントでは出資者及び取締役副社長として太陽光や風力発電事業を推進するとともにバイオマス発電事業を立ち上げる。フォレストエナジーは同社からスピンアウト（独立）、バイオマス発電事業を承継して始動。再生可能エネルギー事業に関与する前は、15年間のプライベート・エクイティ投資経験を有す。この間、主に小売やテクノロジー業界への投資を担当し、あきんどスシローやドラッグイレブン等の社外取締役に就任し経営変革を支援。2011年にシード投資に特化したベンチャーキャピタルImproVistaを共同創業し、ココナラ、オーマイグラス、Material World、くにうみアセットマネジメント等の創業期を支援。慶應義塾大学 総合政策学部卒業（一期生）



服部 結花

インクルージョン・ジャパン株式会社 代表取締役

2004年、京都大学法学部を卒業し、新卒でリクルートに入社。人事部にて、西日本採用責任者。全社の組織運営設計、グローバル展開に向けた本社機能設計に携わる。2008年10月より同社事業開発室にて、大手総合商社とのJV設立、社内新規事業（保険事業）立上げ等に責任者として携わる。2011年11月、インクルージョン・ジャパン株式会社を設立し、「SHARE」、「ゲーミフィケーション」などをテーマとした、ワールドカフェの企画・運営に従事。スタートアップ企業への投資と実行支援に着手。2012年4月からは人事グループ（人事企画、労務、採用、人材開発）マネジャーとして、新人事制度を作り、人材ポートフォリオの最適化、次世代経営者育成プロジェクト立上げ事業開発等を担当。



陶山 祐司

株式会社至真庵 代表取締役
 元経済産業省、元ベンチャーキャピタリスト

東京大学倫理学専修課程卒業。慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント（SDM）学科修士課程修了。米国PMI認定プロジェクトマネジメントプロフェッショナル（PMP）
 経済産業省で東日本大震災を踏まえたエネルギー政策見直し、電機産業政策等を担当。
 その後VC/新規事業コンサルとして、105億円の資金調達をした宇宙開発ベンチャーやIoTベンチャーの経営支援、新規事業支援、政策提言等を実施。その後独立し、社会的意義がある事業の経営・新規事業の支援や、社会課題を解決する金融（インパクト投資）、持続可能なまち/住宅づくり等を推進している。



デモデイ当日の様子 1

開会挨拶 (林野庁 諏訪実 室長、Spero社)



質疑応答する審査員



ピッチをする参加チームの様子



ピッチに聞き入る参加者





デモデイ
表彰審査

デモデイ当日の様子 2

永田町・オンラインの同期開催通信の様子



昼休みに作戦会議をする参加者



閉会挨拶（林野庁 諏訪実 室長）

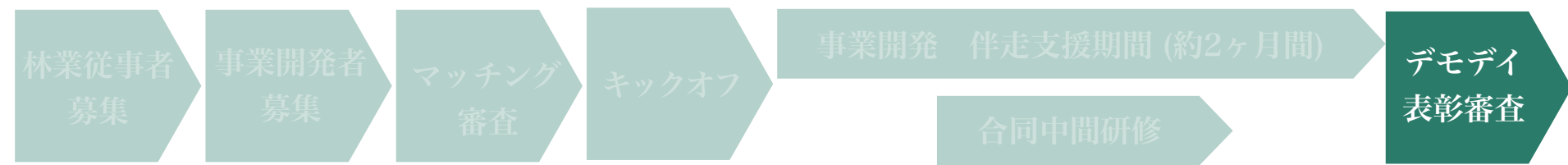


優勝チームと審査員（山林で行うサバイバルゲーム事業、林業に特化した事務支援事業）

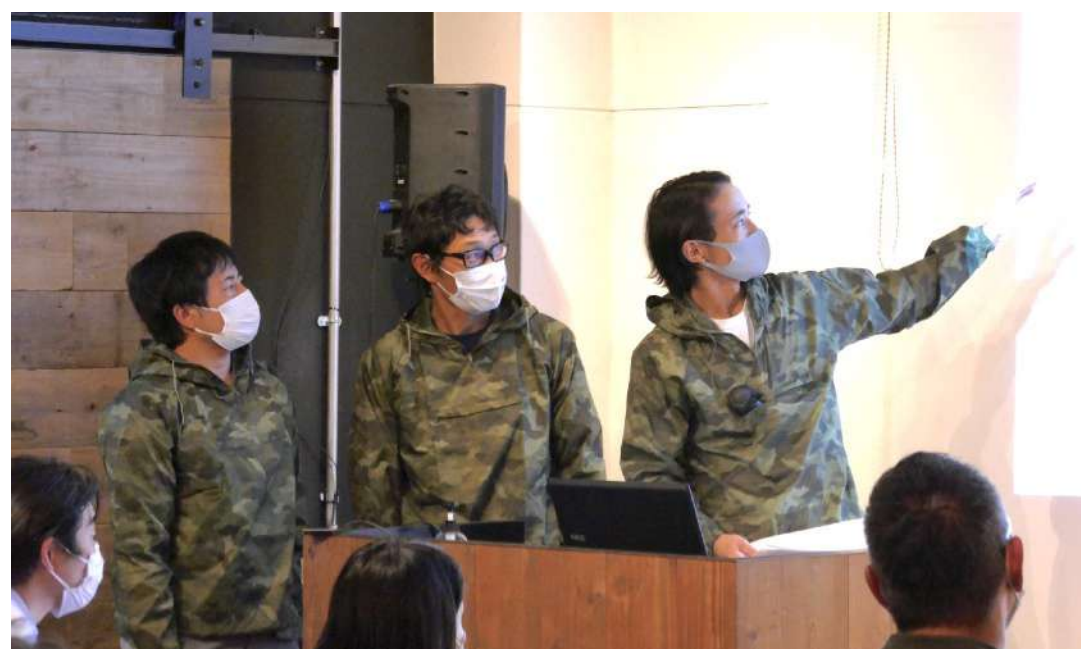
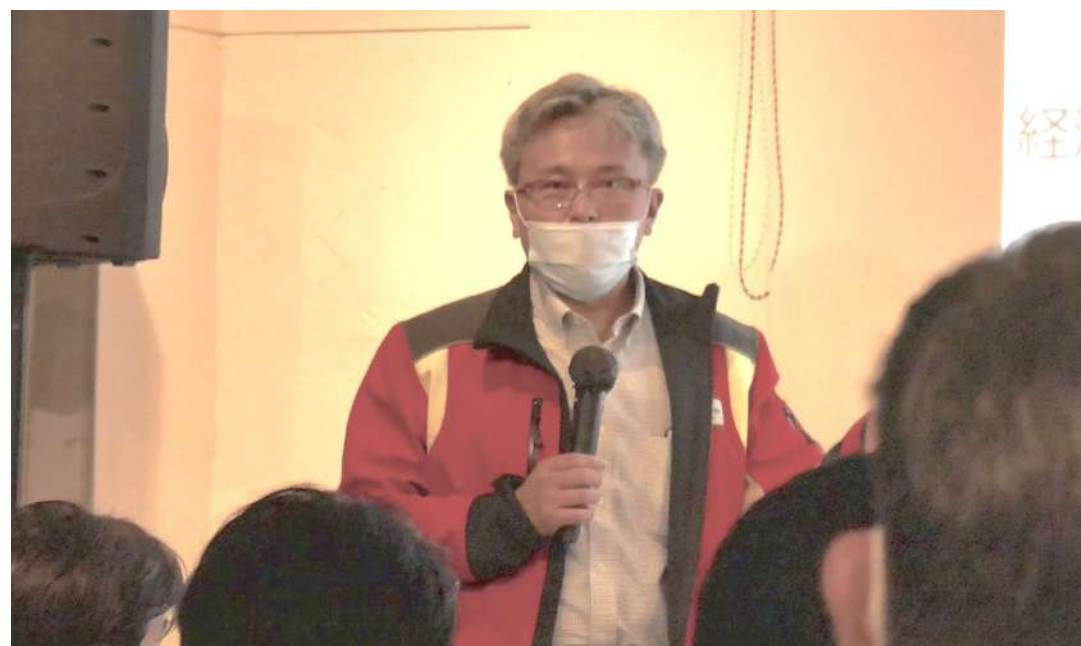


懇親会の様子





予選ピッチで決勝に進出した5チーム



＜施行してほしい山林所有者と施行したい事業体をつなぐサービス＞

- ・奥川 季花/ソマノベース 代表 (事業)
- ・徳永 勇人/特定非営利活動法人かいろう基山 (林業)
- ・メンター：幸田 泰尚/株式会社クラウドリアルティ執行役員

＜竹など小型バイオマス発電ソリューション＞

- ・荒木康孝/ Verde Energia設立準備室 代表(事業)
- ・石倉 悠裕 /林野庁職員 (林業)
- ・メンター：confidential/ 某大手広告会社

＜民間フォレスターによる市町村行政支援事業＞

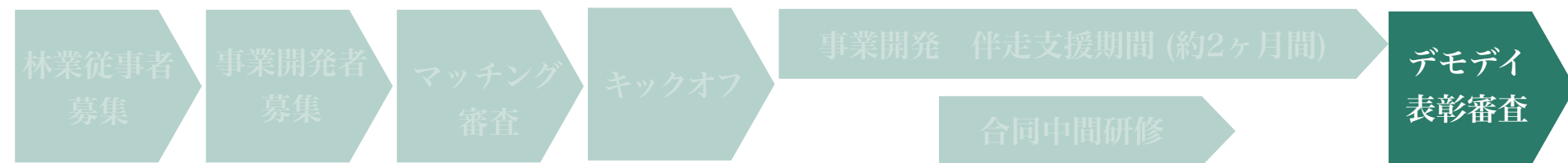
- ・小森 胤樹/ぎふフォレスター協会 代表理事(林業)
- ・メンター：中間 康介/株式会社GREEN FORESTERS 取締役

＜山から育む子ども達の未来と日本の食＞

- ・武久 景子/株式会社武久 代表取締役 (4代目後継者) (林業)
- ・温 世堅/株式会社CIRCL 代表取締役 (事業)
- ・メンター：鴨志田 由貴/作戦本部株式会社 代表取締役

＜山林で行うサバイバルゲーム事業＞

- ・渡部 真之助/某林業会社 (林業)
- ・蛭間 祐介/渋川広域森林組合 造林班班長 (林業)
- ・勝 泉貴/本田技研工業株式会社 (事業)
- ・メンター：池森 裕毅/株式会社tsam 代表取締役



デモデイ優勝チーム



《優秀賞受賞チーム「山林で行うサバイバルゲーム事業」》

【チーム】

- ・渡部 真之助/某林業会社（林業）
- ・蛭間 祐介/渋川広域森林組合 造林班班長（林業）
- ・勝 泉貴/本田技研工業株式会社 ものづくりセンター栃木コックピット 電装開発課(事業)
- ・メンター：池森 裕毅/株式会社tsam 代表取締役

【事業概要】

伐採予定地で行うサバイバルゲーム事業。私有林の山主から山を借り、サバゲーフィールドとして提供する。入山料の一部をレンタル料、市町村に造林サポート基金として還元することで持続的な山づくりに寄与する。また、サバイバルゲームツアー開催を通じ、新しい層に対し山林への興味関心を醸成するとともに、周辺の町おこしにもつなげる。



《優秀賞受賞チーム「施行してほしい山林所有者と施行したい事業体をつなぐサービス」》

【チーム】

- ・奥川 季花/ソマノベース 代表（事業）
- ・徳永 勇人/特定非営利活動法人かいろう基山（林業）
- ・メンター：幸田 泰尚/株式会社クラウドリアルティ 執行役員

【事業概要】

森林管理（伐採や造林）を施業してほしい山林所有者と施業したい事業体をつなぐサービス。このサービスを通じて、山林所有者に利益を返せる業者を増やすとともに、事業者側の生産向上・社内効率化なども支援することで、山林所有者が森林施業を依頼する事業者の選択肢を増やし、林業界全体の質向上と底上げを目指す事業。

1 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の背景

- 1-1) 林業にオープンイノベーションが必要な背景
- 1-2) イノベーションを生み出すサイクル
- 1-3) 他産業・他技術との交流が少ない林業界
- 1-4) 異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション
- 1-5) SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト
- 1-6) 二つのプロセス支援で事業を創出

2 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の実施概要

- 2-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要
- 2-2) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ
- 2-3) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ(詳細)

3 SFA2020の実施詳細：募集準備

- 3-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION WEBのリニューアル
- 3-2) 林業・森林づくりにおける課題マップの作成（第1期SFAの微修正）
- 3-3) 映像の作成と公開

4 SFA2020の実施詳細：募集

- 4-1) 募集要項 詳細
- 4-2) 募集結果
- 4-3) チームマッチング面談とチーム組成
- 4-4) 採択された参加11チーム

5 SFA2020の実施詳細：キックオフ

- 5-1) キックオフ開催
- 5-2) 「新規事業創出」講義資料一部
- 5-3) 「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル
- 5-4) 「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

6 SFA2020の実施詳細：伴走支援

- 6-1) リーンスタートアップ手法の導入
- 6-2) 2か月間の手厚いメンタリング伴走支援
- 6-3) メンター経歴一部
- 6-4) 林業フィールド・林業パートナーの用意

7 SFA2020の実施詳細：中間研修

- 7-1) 中間研修の開催
- 7-2) 中間研修の先輩起業家講演
- 7-3) メンターパネルディスカッション
- 7-4) 模擬ピッチとメンター（模擬審査員）によるフィードバック

8 SFA2020の実施詳細：デモデイ

- 8-1) デモデイの開催 概要
- 8-2) デモデイの審査員
- 8-3) デモデイ当日の様子 1
- 8-4) デモデイ当日の様子 2
- 8-5) 予選ピッチで決勝に進出した5チーム
- 8-6) デモデイ優勝チーム

9 受賞者の事業化の動き

- 9-1) 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援
- 9-2) 株式会社フォレストーリー の事業化の動き
- 9-3) 株式会社ソマノベース（会社登記は4月予定）事業化の動き

10 取りまとめと総括：

- 10-1) 第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価
- 10-2) 他、SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の気づき
- 10-3) 課題まとめと次年度以降の施策
- 10-4) SFA2020参加者アンケート結果 サマリ
- 10-5) アンケート ポジティブフィードバック 1
- 10-6) アンケート ポジティブフィードバック 2
- 10-7) アンケート ポジティブフィードバック 3
- 10-8) アンケート ポジティブフィードバック 4

「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援

- デモデイ で選出された優勝チームは、デモデイ の週明けまでに、中長期の事業計画及び年度内の実証計画（体制・スケジュール・予算を含めた計画）を改めて事務局に提出し、「森林づくりへの異分野技術導入・実証事業の補助事業」補助事業者である一般社団法人環境共創イニシアチブ（以下、「SII」という）と連携し、下記スケジュールですすめた。

①事業化体制確認 (11月上旬)

- ✓ Speroに終了確認書を提出
- ✓ 「誰の」事業として事業化するか、チーム内で合意
- ✓ 事業化の具体的な体制・スケジュールをSperoおよびSIIに相談・報告

②SIIとの契約締結 (11月中旬から12月上旬)

- ✓ 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」補助事業者SIIと委託契約を締結
- ✓ 「施行してほしい山林所有者と施行したい事業体をつなぐサービス」は、奥川季花 個人、「山林で行うサバイバルゲーム事業」は新設立の法人で契約




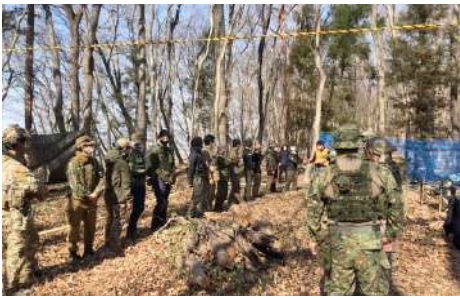


③事業化支援 (12月～3月)

- ✓ 各自が事業化を進める上で、適宜、Speroでも支援した。「施行してほしい山林所有者と施行したい事業体をつなぐサービス」では、チームビルディング、メンターの探し方と依頼方法、「山林で行うサバイバルゲーム事業」は、デザイナー・ビデオカメラマンのマッチング、アイデアのブレストなど行った。

④成果確認・発信 (3月)

- ✓ 事業成果についてヒアリングを行い、その成果一部のリリース等を検討。

株式会社フォレストローリー の事業化の動き

	11月	12月	1月	2月	3月
プロダクト開発		2020/12/22 イベント募集開始		2021/2/21 テストイベント実施	サバゲー単価UPのための 新規プロジェクトの検討開始 
	2020/11/23 嘉陽が丘里山の会@栃木県壬生町の協力をえて、 山主より原野林を借りる見通しが立つ				2021/3/21 イベント第二弾実施予定
PR		2020/12/18 自社サイト完成	2021/1/7 下野新聞掲載	2021/2/4 あしかも掲載	
	2020/12/29 フォレスト ジャーナル掲載(SFA2020)			2021/2/13 農林水産省のビジネスコンテスト INACOME本選出場(ファイナリスト)	
総務	2020/12/1 会社登記 株式会社フォレストローリー 発足	代表取締役 渡部真之助(36) 取締役 蛭間祐介(38) 勝泉貴(38)			2021/2/1 宇都宮ベンチャーズ 入居 栃木県よろず支援拠点
		顧問 池森裕毅			

株式会社ソマノベース (会社登記は4月予定) 事業化の動き



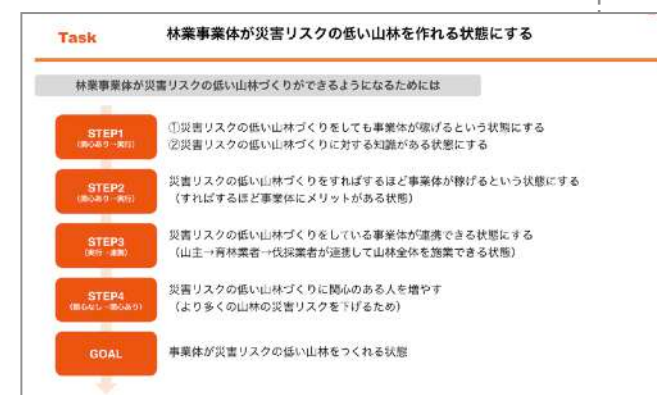
ビジネスメンターサーチ



→

システークホルダー（伐採事業者、造林事業者、製造者、森林組合）およびその課題の洗い出しを実行、1ヶ月ヒアリング時間に割く

プロダクト開発



● 事業アイデアのピボット

命題：災害低い山づくり

課題

- ・ 災害に強い山づくりは関心はあるが十分なリソース（資金と人）がない

ソリューション

- ・ 防災情報WEB立ち上げ
- ・ 防災に前向きな伐採業者情報アップ
- ・ 木材販売

- ・ 製材所（買う側）を抑え、提供できる木材の種類、タイミング、をスケジューリングして高単価で提供
- ・ 工務店およびエンドユーザーにエシカル消費を啓蒙し、災害に強い木材を高付加価値として売れるブランディング・スキームを作る

2021/4 株式会社ソマノベース設立予定
和歌山県田辺市 起業支援制度

総務

1 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の背景

- 1-1) 林業にオープンイノベーションが必要な背景
- 1-2) イノベーションを生み出すサイクル
- 1-3) 他産業・他技術との交流が少ない林業界
- 1-4) 異分野の事業開発系経験者の知見によるオープンイノベーション
- 1-5) SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の基本コンセプト
- 1-6) 二つのプロセス支援で事業を創出

2 SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020の実施概要

- 2-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020 概要
- 2-2) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ
- 2-3) SUSTAINABLE FOREST ACTION 2020全体の流れ(詳細)

3 SFA2020の実施詳細：募集準備

- 3-1) SUSTAINABLE FOREST ACTION WEBのリニューアル
- 3-2) 林業・森林づくりにおける課題マップの作成（第1期SFAの微修正）
- 3-3) 映像の作成と公開

4 SFA2020の実施詳細：募集

- 4-1) 募集要項 詳細
- 4-2) 募集結果
- 4-3) チームマッチング面談とチーム組成
- 4-4) 採択された参加11チーム

5 SFA2020の実施詳細：キックオフ

- 5-1) キックオフ開催
- 5-2) 「新規事業創出」講義資料一部
- 5-3) 「SFA優秀のコツ」去年の優勝者によるパネル
- 5-4) 「森林未来緊急会議」林業ベンチャーが林業の課題と未来を語るパネル

6 SFA2020の実施詳細：伴走支援

- 6-1) リーンスタートアップ手法の導入
- 6-2) 2か月間の手厚いメンタリング伴走支援
- 6-3) メンター経歴一部
- 6-4) 林業フィールド・林業パートナーの用意

7 SFA2020の実施詳細：中間研修

- 7-1) 中間研修の開催
- 7-2) 中間研修の先輩起業家講演
- 7-3) メンターパネルディスカッション
- 7-4) 模擬ピッチとメンター（模擬審査員）によるフィードバック

8 SFA2020の実施詳細：デモデイ

- 8-1) デモデイの開催 概要
- 8-2) デモデイの審査員
- 8-3) デモデイ当日の様子 1
- 8-4) デモデイ当日の様子 2
- 8-5) 予選ピッチで決勝に進出した5チーム
- 8-6) デモデイ優勝チーム

9 受賞者の事業化の動き

- 9-1) 「森林づくりへの異分野技術導入・実証」事業との連携による事業開発支援
- 9-2) 株式会社フォレストーリー の事業化の動き
- 9-3) 株式会社ソマノベース（会社登記は4月予定）事業化の動き

10 取りまとめと総括：

- 10-1) 第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価
- 10-2) 他、SUSTAINABLE FOREST ACTION2020の気づき
- 10-3) 課題まとめと次年度以降の施策
- 10-4) SFA2020参加者アンケート結果 サマリ
- 10-5) アンケート ポジティブフィードバック 1
- 10-6) アンケート ポジティブフィードバック 2
- 10-7) アンケート ポジティブフィードバック 3
- 10-8) アンケート ポジティブフィードバック 4

第1期SFAの取りまとめ振り返りと今年度の評価

前年度 第1期SFAの取りまとめ（第1期委託事業者資料より）
オープンイノベーションに必要なもの

SUSTAINABLE FORERST ACTION 2020

リーダーの
素養

- リーダーが事業開発経験者かどうかによって、事業開発の進め方やスピードに大きな差が生まれた。
- 補助金・公共事業で成り立つB2G産業の側面を持つ林業業界において、事業開発経験は容易には得られない。



- 異分野の参加者ターゲットを事業開発経験者とおき、足りない分は事業開発経験のあるメンターが補った。
→前年度より格段に、質と量ともに事業検証レベルは向上。

林業業界
への理解

- 優れた事業家は、業界での知識と経験を有するメンバーのフィードバックを受けて、何度もピボットを繰り返し替えることができた。



- 林業従事者の、把握している林業課題にばらつきがありがあり、一からヒアリングを行うチームが複数あった。
→次年度以降は、林業理解の底上げを行うため、林業合宿などを実施したい

市場の魅力

- 優れた事業家は、課題や提供価値を捉え直すことで、顧客を広げ、市場規模を確保することができる。
- 一方、現存の林業課題を正面から解決する内容は、市場規模とコスト感が合わず、事業家にとって魅力的でない。



- 異分野の参加者ターゲットを事業開発経験者とおき、足りない分は事業開発経験のあるメンターが補った。
→前年度より格段に、質と量ともに事業検証レベルは向上。

- ・林業理解にチームごとに差異
- ・チーム同士のアクション重複
(林業課題調査)

- ・林業従事者によって、林業課題の網羅性に違いがあった
- ・林業を取り巻くステークホルダーとその課題の整理、先行事例の下調べなど多くのチームが同時期に同様のアクションをとっていた。

- ・ソリューションの検証に課題

- ・顧客の定義と課題の把握 (Customer-Problem Fit) の必要性の理解とその検証については、前年度より飛躍的に伸びたものの、その検証結果を経た上での、ソリューションの起案と組み立て・およびソリューションの検証 (Problem-Solution Fit) に課題が残る。

- ・チームビルディングと役割分担
- ・モチベーション低下のリスク

- ・チームのメンバー間での熱量の違いや、役割の不明瞭さがチームビルディングを阻害する。
- ・2ヶ月間の間に、仮説が否定され行き詰まったり、チームの一部のコミットメントが急低下したり、私生活に変化が起こったりチームメンバーのモチベーションが揺らぐことがあった。

事業開発経験者の必要性

- ・チームの事業開発経験者や、事業開発経験のあるメンターの動きにより、前年度より格段に、質と量ともに事業検証レベルは向上したが、事業開発経験者募集において課題が残る結果。

プログラム終了後の
支援体制欠如

- ・2ヶ月間のメンター伴走支援により、2ヶ月間の事業検証はスムーズにいくものの、起業家・経営者として十分なスキルセットがつくわけではなかった。

総務機能の支援欠如

- ・プログラム終了後、会社設立の手続きや、会社間取引・補助事業者としての必要書類に関する知識・経験がなく、非効率な工数を取られがちだった。

横・縦の繋がり
の要望

- ・過去のSFA参加者や今回の参加者等縦と横のつながりに対する要望が多く聞かれた

- ・林業従事者が林業を知らない
- ・チーム同士のアクション重複 (林業課題調査)

- ・講義の充実と進行にマッチした内容の要望
- ・ソリューションの検証に課題

- ・チームビルディングと役割分担
- ・モチベーション低下のリスク
- ・年齢とチーム仲の関連

事業開発経験者の必要性

プログラム終了後の支援体制欠如

総務機能の支援欠如

横・縦の繋がり要望



- ・林業の川上から川下、隣接産業に至るまで見学と体験を包含した、濃密な林業合宿とその学びの共有
- ・講義におけるSFA内外の事例共有

数度に分けた講義の充実化（事業開発の詳細）とオンライン配信



- ・参加者は、年齢が近いもの同士をマッチング
- ・メンターの鼓舞スキルに依存せず、週次でチームをフォローする事務局担当を配置
- ・メンターには、中間研修を日処にチームのリーダーや役割を決めるよう依頼

起業家育成の会社を運営する2社と連携し、事業開発経験者を募集

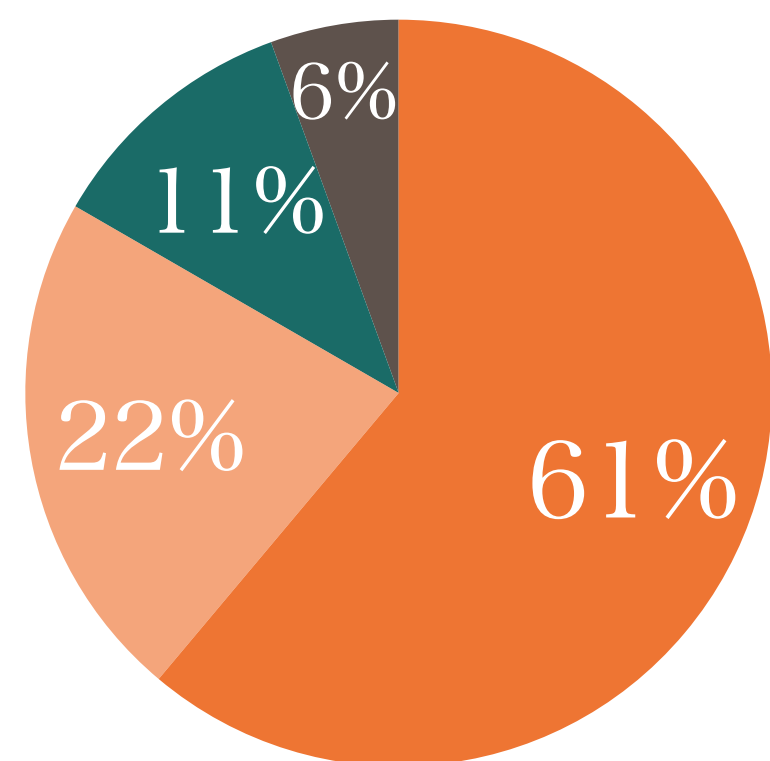
上述2社とも協力し、事業立ち上がり後のメンター候補の母集団を形成。発注できる体制を整える。

- ・会社設立の手順のレクチャーおよびツール紹介
 - ・企業間契約や補助事業社に必要な書類のフォーマット提供
-

- ・キックオフ、講義、デモデイなど、SFA第1期、第2期の参加者にも声かけ
 - ・共通Slackチャンネルを作る
-

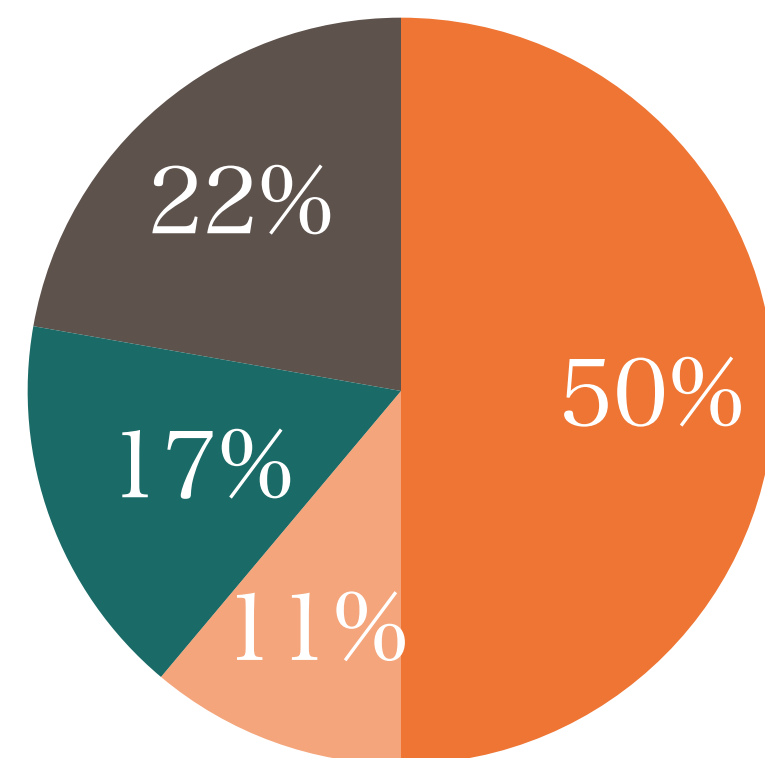
プログラム全体

とても満足・満足 **83%**



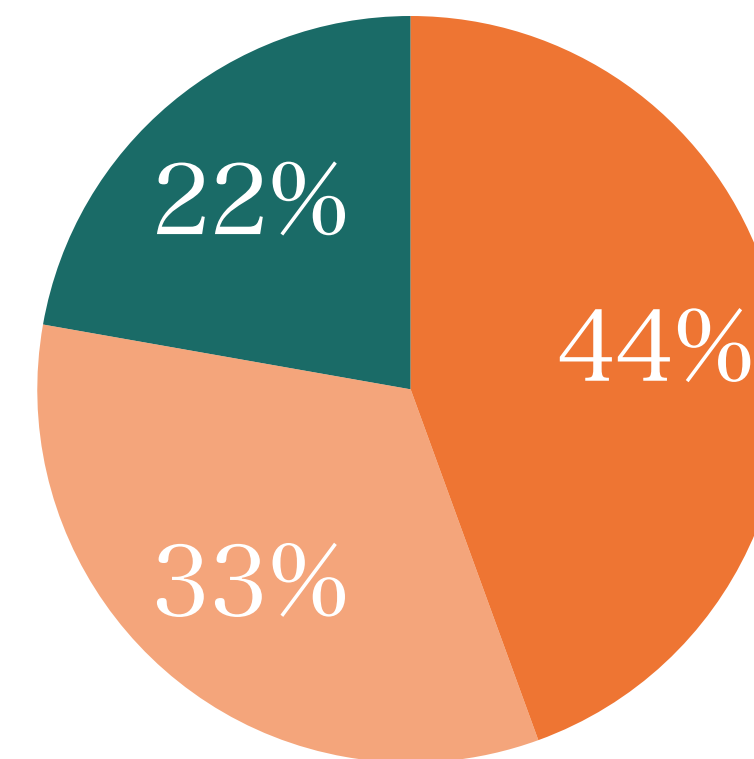
編成されたチーム

とても満足・満足 **61%**



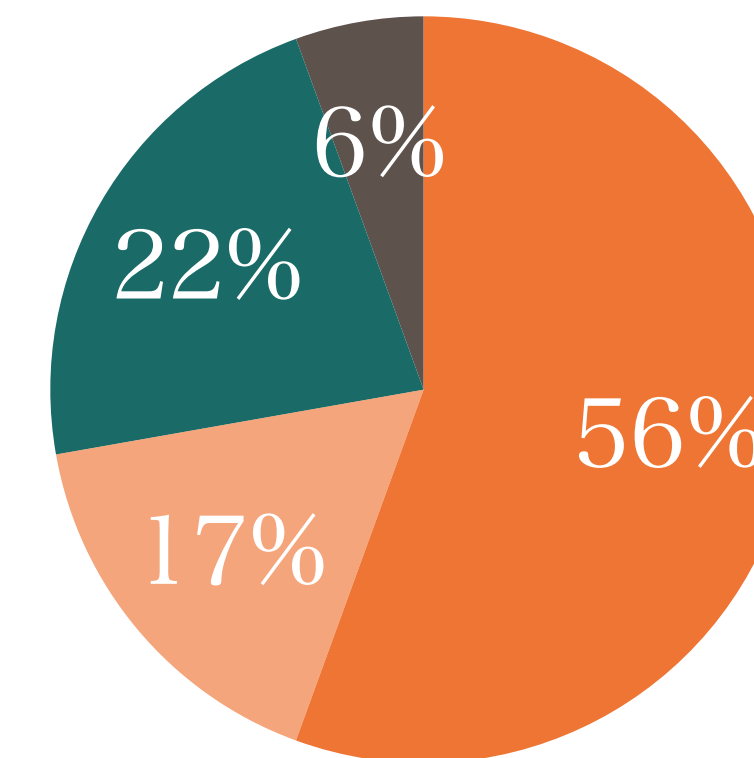
伴走メンタリング

とても満足・満足 **77%**



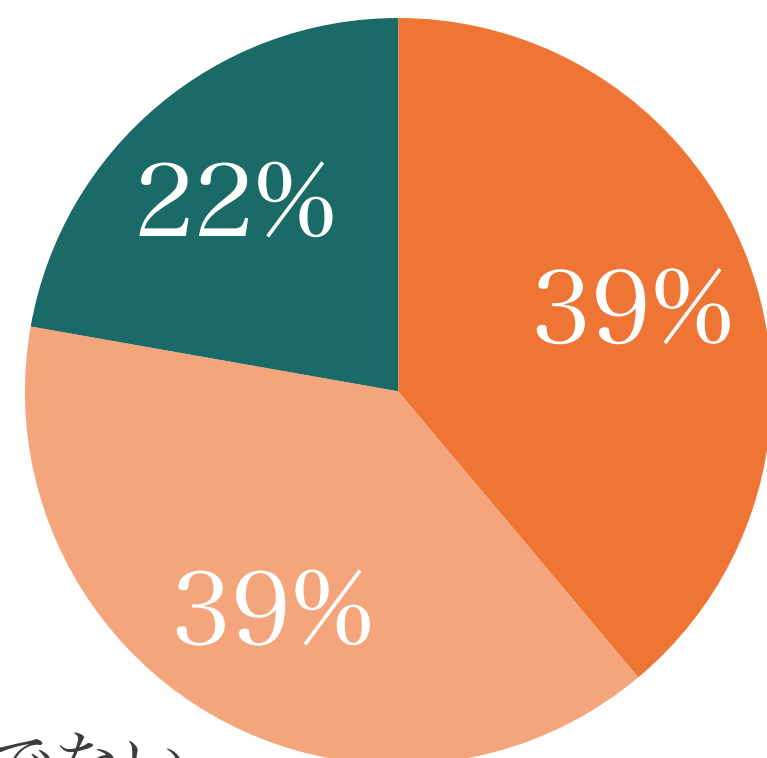
デモデイ

とても満足・満足 **75%**



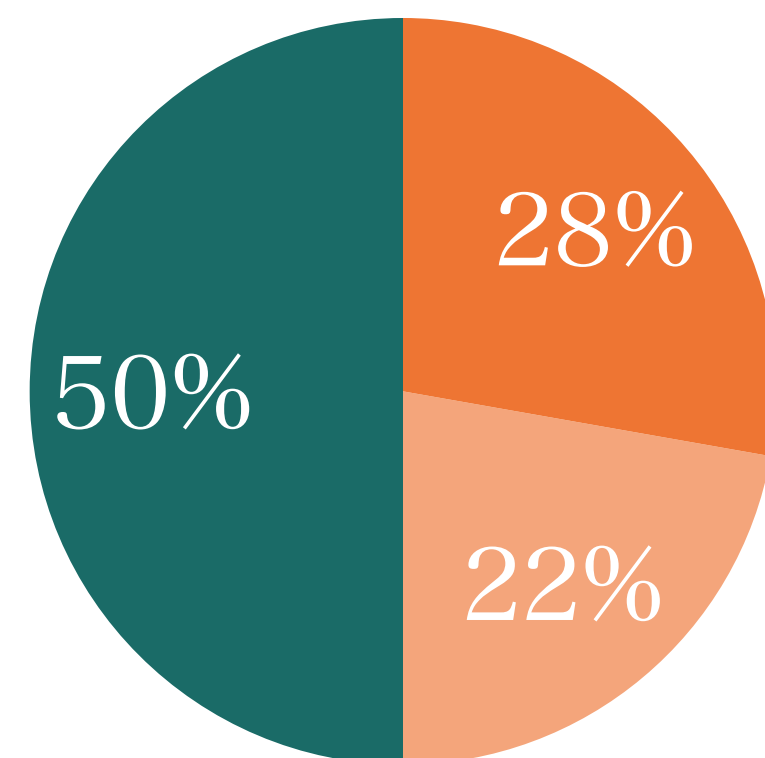
Spero社高橋講義

とても満足・満足 **78%**



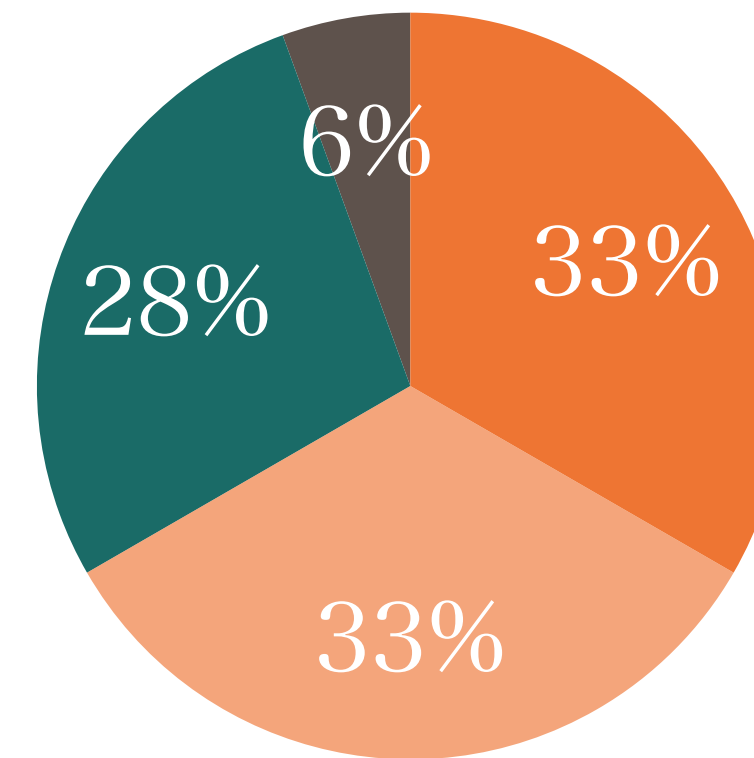
林業未来会議パネル

とても満足・満足 **50%**



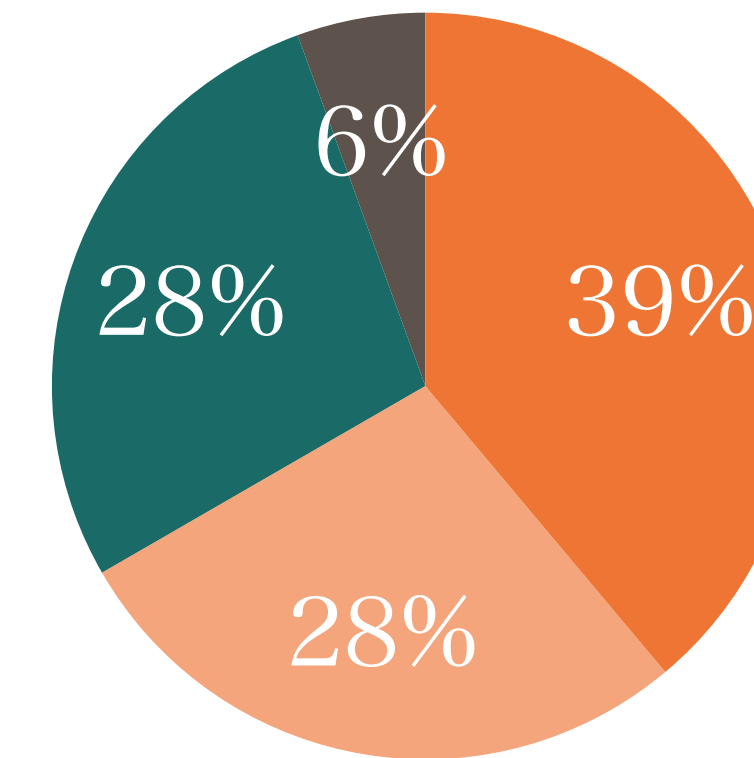
先輩起業家講演

とても満足・満足 **66%**



中間研修の模擬ピッチ

とても満足・満足 **67%**



- とても満足
- 満足
- 普通
- あまり満足でない
- 全く満足でない

アンケート ポジティブフィードバック 1

【満足】

- とても充実していました
- とても有意義なプロジェクトだった。
- 3～5年目程度の若手職員に勧めたい。
- 運営、チーム、メンターのサポートを得て人生で1番濃密な2ヶ月を過ごせた。
- 普段の業務では得ることのできない知識や経験を積ませてもらった。
- 今まで全くしたことのない経験を体験できました。
- 今まで経験したことのないプログラムを受講出来たため
- 今年の方が作り上げている感と満足度が高かったです。
- チームのメンバーとのはなしで、このプログラム睡眠時間削って、大変だけれども「1年間ビジネススクールに行くよりも勉強になる」と話してました。ちなみにだれもビジネススクールに通ったことないけれども！

【落選しても次へ】

- 林業を改めて考えるとともに、新しいことにチャレンジするプロセスとマインドを身につけられました。
- ここで落選してもまた次へつながる展開も描けたので、持ち帰るものを得られたのは良かった
- プログラムを経験し次へつながる経験を得れた。

【継続への希望】

- 是非こうした取り組みは続けれていただければと思います。
- プログラムは継続を強く希望します
- 素晴らしいプログラムです。是非、継続していただきたいです。
- また参加したいです！
- また可能であれば今後もそのような機会があれば参加してみたい
- これからしっかり事業化し、ビジネスとしてのサステイナブル性を立証しながら本プログラムにもずっと関わって行きたい。

アンケート ポジティブフィードバック 2

【チーム】

- 生涯の同志と呼べる仲間がこんなに一気に短期間でできたことではないのでうれしい。
- 色々やり取りできたことは、私に足りていないことを示してもらえたのでそれぞれに専門性が高く、真面目、実直であった。
- このプログラムに参加しなければまず出会うことのない素晴らしい方と一緒に戦えたと思います。
- プログラム終了後も交流が続く良いチームです。
- SFAに対するコミットが一定で、波がなく、タスクも必ず期限内に進めてくださったので、仕事を任せやすく信頼できるメンバーでした。
- 少人数のチームでとても動きやすかった。
- 良いメンバーと巡り合えた
- 得意分野の異なる3人が集まり、最初のアイデアと全く異なる作品ができたこと。1人では絶対にできないアイデアが生まれました。
- バランスのとれたチームで皆さんに感謝しています他業種の方と林業について真剣に語り合え気づかせていただくことが多くあった
- 志の高い方ばかりだった。徹夜でも楽しめた
- 林野庁職員、林業者、事業者がチームとなりプロジェクトの調査ができた。

【他チームとの交流・ネットワーク】

- 他チームの内容に学びがあった
- 他のメンバーにも会えたのでネットワークも全国に広がった。
- 普段であれば絶対にお会いできない方々とビジネスの話ができ、自分の視野が広がった
- 林業知識はさることながら、様々な分野の方とのマッチングが、去年よりも大幅に活発にSlack内外でできる雰囲気づくりがよかった。
- 事業化に向けて林業の現場、行政など一人ではできなかったと思います。この2ヶ月で貴重な情報やネットワークを得ることができました。
- プログラムを通して、様々な方とつながることができ、前に進めることができた

アンケート ポジティブフィードバック 3

【オープンイノベーションの 必要性の実感】

- チームで事業として本格的に取り組むには、相手の話しをしっかりと聞き、自分で考え、行動する、必要最低限なビジネスパーソンとしての素養を備えたパートナーが必要だとあらためて感じました。
- 林業界の現場で悶々としている人たちにもっと、変えたいことを変えたいと言ってほしいと思います。それがちゃんとしたビジネスになるのかと、汗を書く体験は林業界の底上げに必要だと思います
- 林業界だけでは、課題を解決できないことを強く認識しました

【メンタリング】

- 色々なアイデアを頂きました
- 多くのメンタリング経験のあるメンターで、ミーティングも充実した内容であったため。進め方やアドバイスなど
- スパルタのメンタリングを10回の上限を越えても付き合ってください点。私たちにとって今もこれからも最高のメンターです。
- 遠慮なく、指摘していただき、多角的にもものを見るヒントをいただきました。
- slackでも丁寧にリアクションしていただき、指摘も的を得ていました。
- 大変貴重な意見を頂き今後の事業のベースになりそうです
- スケジュールの引き方から、検証項目まで細かくチェックいただき、フィードバックしていただきました。納得いくところまで一緒に内容を詰めていただきました。
- 次にやるべきことを示していただけなので、進行がとてもスムーズだった。
- 素人にわかりやすくスタートアップの進め方・考え方を説明していただきとても助かった。
- 現場で本当に困っている内容について調査、アドバイスをいただけた。
- 無茶振り、どんどん突っ走るメンターについていくことが大変でしたが、勉強になりました。
- 問題定義やアドバイスなどを的確に行ってもらえた

アンケート ポジティブフィードバック4

【Spero社 講義】

- 知らないことがいっぱいあり、勉強になりました
- 良い意味で想定外の内容でした。田舎にいる身にとってはとても勉強になりました。
- スピードが速いが常にシンプルな例えがあり解り良い。
- キックオフ→様々なアプローチが予想される中、提案を出力する上で一定のフォーマットが果たされた。中間研修→改めて問題を整理する機会が得られた。
- 簡潔でわかりやすかった。
- 昨年よりもバージョンアップしていた。例えが分かりやすい。
- デモデイに向けて事業内容を詰めていくときに、高橋さんのプレゼン資料を何度も読み直して自分たちの事業だったらどういう内容になるのかを考える参考にしました。一から事業を作ったことがないので、プランニング中に何を進めていいのか分からなくなっても、中間やキックオフの講義内容が教科書変わりになり、手を止めることなく進められました。
- とても分かりやすかった。
- わかりやすく、適度なプレッシャーを与えてくれるから。
- キックオフや中間報告等で研修のようなものがあるのがよかった。

【林業パネル】

- 面白い取り組みでした
- 林業の抱える全体像を、俯瞰できた
- 山主の立場、林業事業体の立場で課題を共有いただけた。
- 質疑応答等もあり、現場で働かれている作業員さんの意見等も聞いたのは大変良かったです。

【先輩起業家講演】

- 事例を聞いたのは良かったと思います。参考になりました。
- 事業をどのようにピボットしたかなど、参考になることが多かったため
- ピボットの仕方、MVPの感触、など、凄くリアルに分かりやすく、理解できました。
- 事業立案に関してちょうど悩んでいたタイミングで、その悩みに合ったパネルの内容だったので、個人的にとっても勉強になりました。質疑応答も何度も質問させていただき、すべて丁寧に答えていただけたので、とても満足です。
- 進め方の参考になるので、とても良かった

SPERO

ソーシャルインキュベーター

Link up, Load on, Lift off!

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

問い合わせ先

- 株式会社Spero
- 高橋ひかり
- 070-1186-0122
- hikari@spero.co.jp